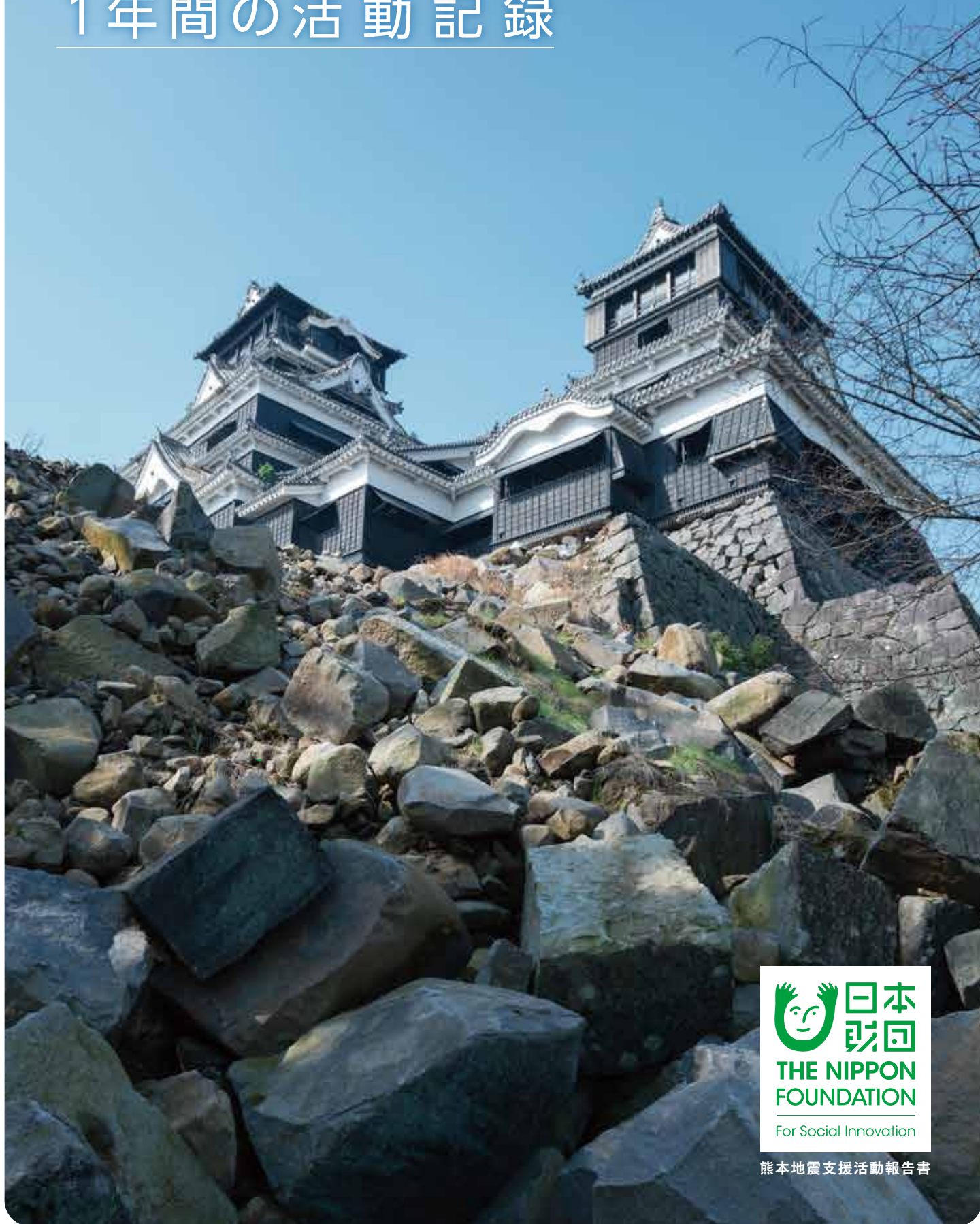


# 平成28年熊本地震 1年間の活動記録



# 2度の震度7を記録した直下型地震と、その後1年間の日本財団の活動について

2016年4月14日21時26分、マグニチュード6.5 震度7(熊本県益城町)、  
続いて4月16日1時25分、マグニチュード7.3 震度7(熊本県益城町・西原村)の地震、  
更に4月15日と16日に1度ずつ2度の震度6強の地震が熊本県熊本地方、阿蘇地方を襲いました。  
観測史上、九州での震度7は初めて、1つの震災で2度の震度7を記録するのは日本で初めてです。

避難者は最大で約18万4000人、建造物の損壊は17万6000棟にのぼり、2017年3月末時点、  
関連死を含め222人(内、関連死167人、二次災害死5人)もの尊い命が失われる大きな被害をもたらしました。

日本財団では、地震発生直後からすぐに支援を決定し、復旧・復興支援に貢献できるように活動を続けてきました。  
これまでご支援いただいた皆さまのご厚意に心より感謝申し上げます。

## I N D E X

活動概要	2-3
対談 熊本県 蒲島知事 × 日本財団 笹川会長	4-5
支援決定と合意書締結	6-7
熊本本部開設	8-9
発災直後の初動	10-11
弔慰金・住宅損壊見舞金	12
緊急対策支援	13-17
熊本城再建支援	18-21
NPO・ボランティア活動支援	22-25
学生ボランティア派遣	26-27
企業からの支援	28-31
住宅・事業再建資金への金融支援制度「わがまち基金」	32
施設修繕事業	33
海洋イベント	34-35
鼎談「熊本地震の経験と今後」	36-39

### 〈資料編〉

● 収支一覧	40
● NPO・ボランティア活動支援 支援先一覧	41-47
● 弔慰金・見舞金配付内訳	48



# 活動概要

日本財団では、平成28年熊本地震の被災地域に対し、緊急対策支援として、いち早く総額93億円の支援を決めました。内訳は、緊急対策支援に3億円、NPO・ボランティア活動支援に10億円、弔慰金・住宅損壊見舞金として20億円、住宅・事業再建資金の融資制度創設に30億円、熊本城再建支援に30億円です。

その後、被災地のニーズに合わせて、必要に応じた緊急支援・復興支援事業を決定、実施してきました。

内 容	当初発表 (2016年4月19日)	支援実績 (2017年5月7日時点)
<b>当初発表事業</b>		
緊急対策支援	3億円	352,154,563円
NPO・ボランティア活動支援	10億円	316,610,022円
弔慰金・住宅損壊見舞金の支給	20億円	4,785,700,000円
住宅・事業再建資金のための融資制度（わがまち基金）	30億円	3,600,000,000円 <sup>(※1)</sup>
熊本城再建のための支援	30億円	3,025,050,000円 <sup>(※2)</sup>
合 計	93億円	12,079,514,585円
<b>追加支援事業</b>		
学生ボランティアの派遣事業		12,826,000円
被災した社会福祉施設等への支援		306,560,000円
被災した小中学生への復興イベントの実施		79,718,477円
企業からの事業指定寄付等による事業		271,188,734円 <sup>(※3)</sup>
合 計		670,293,211円
当初発表事業・追加支援事業 計		12,749,807,796円

※1：2018年度までの3年計画として実施予定。2016年度は1,338,000,000円を決定。  
 ※2：2017年度からの6年計画として実施予定。  
 ※3：2016年度は47,865,218円を決定。

## 本震

4月16日 午前1時25分  
M7.3 最大震度7



## 前震

4月14日 午後9時26分  
M6.5 最大震度7



ドローンで撮影された震災直後ブルーシートで覆われた益城町の被害家屋(公益社団法人みらいサポート石巻提供)

# 対談

## 多様性を活かした官民連携。

蒲島郁夫 熊本県知事  
笹川陽平 日本財団会長

### 本震から10日で結ばれた協定

笹川 熊本地震発災から1年が過ぎようとしています。阪神・淡路大震災以来、現在まで50以上の災害支援を行ってきましたが、熊本地震の場合は県と協定を結ばせていただきまして、私たちも大変活動しやすくなりました。県をあげてご理解とご協力をいただき、協定書は大変意義深いことだったと考えております。

蒲島 今回の熊本地震は阪神・淡路大震災級の震度7の地震が立て続けに2度も発生しました。余震も4,200回を超え、これらが行政の対応を複雑で困難なものにしました。そのような中で、日本財団からは2016年4月16日の本震からわずか3日後には支援の決定をいただき、4月26日に「日本財団と県の合意書」が締結できました。県庁前に日本財団災害復興支援センター熊本本部も開設され、物資やNPO支援等の緊急的なものから、住宅・事業再建支援、そして県民の誇りである熊本城再建支援など長期的なものまで、多岐にわたり支援いただいています。行政では手が届きにくい部分に対し迅速かつ的確に対応いただき、心から感謝いたします。

笹川 一人ひとり違う被災の状況を、避難所を毎日回って調査いたしました。そして避難所にトイレを設置するなど、被災者にご不便をおかけしないように配慮いたしました。

蒲島 災害の対応は日々刻々と変わります。行政では迅速に対応しきれない面があります。その点、熊本本部がNPOの方々のコーディネートをされたり、家屋の被害が予想を上回るものであってもすぐに増援の対応をいただきました。

笹川 住宅の再建があつてこそ、将来に希望が持てます。こうした動きがきっかけとなり、国からの支援も早まったとうかがっております。

### 災害対応のモデルケースとなる可能性

蒲島 今回の地震で多くのことを学びました。その一つが、民間団体やボランティアの方々の熊本を助けたという強い気持ちと、その支援の持つ力の大きさです。一方で、全国からの善意が注がれる中、うまく受け入れることができなかった反省もあります。

笹川 災害時に限らず、この多様化の時代、政府・行政だけでは処理しきれない面があると思いますので、民間の側もその点を考慮しながら、力を合わせて社会を良くして行く仕組みができるといいですね。

①2017年4月10日、1年間を振り返って対談を行いました。



②官民の連携について意見を交換しました。

蒲島 今回の熊本県と日本財団の協力関係はこれからのモデルになるのではと考えており、全国知事会でも情報発信しようと思います。予測がつかない災害時には自分たちだけでは行き詰りますから。

笹川 熊本本部ものべ5,000人以上の方に活用していただいて、NPOの情報交換にも役立ちました。行政へのお願いも一本化を目指して努力できました。

蒲島 熊本本部に県と縁のある方を置いていただいたことも、本当に有り難かったです。

### 災害を前提とした仕組みづくりの必要性

笹川 多くの皆さまがボランティアで入っていただいた一方、受け入れ側が災害対応の知識が少なく、何をして良いのか分からない場合がありました。災害時のボランティアの受け入れについても、これまでの社会福祉協議会主体ではなく、新たな体制が必要だと感じています。また地元の警察官、消防署員などが休日にお手伝いに入っていただいたのですが、家屋の倒壊が多かった今回の震災では、チェーンソーやジャッキの使い方を心得ていたり、重機のライセンスがあることが大切でした。数日程度の研修で免許を取得できるので、ぜひ取り入れていただきたいですね。

蒲島 災害を実際に経験している人のノウハウが必要です。我々には次に何が必要なか読めません。あとは常に官民で情報交換を行って、常日頃から顔の見える関係を築くことが大切だと痛感しました。災害を通じて、民間団体やボランティアの方々の力を強く感じました。

笹川 日本は災害立国です。急峻な地形による土砂災害、台風の通り道で大陸プレート4枚の上にある国は世界にも例がありません。それが強靱な日本人の精神を形作ってきた面があるとしても、科学の発達した現代、災害が起きる前提に立った仕組みづくりが必要だと思います。

### 全国の皆さまへのメッセージ

蒲島 全国の皆さまには、旅行もボランティアだと思ってぜひ熊本を訪れていただきたい。南阿蘇へのアクセスルートである俵山ルートも暫定開通しましたので、これから阿蘇の素晴らしい景色も味わえます。また熊本城も復旧する過程を公開し、観光資源とする取り組みも進めたいと思います。

笹川 必ずしもがれき撤去などの作業や募金だけが支援ではないということですね。善意もタイミングと秩序が大切です。受け入れ側のキャパシティの問題もありますので、気持ちをありのままに届けるのではなく、被災地の立場になった支援が必要ですね。

蒲島 今回の震災で得たこととして、熊本県民の間に絆と一体感が生まれました。そして日本財団を始め、日本全国、また世界中から多くの温かいご支援をいただき、皆が感謝の気持ちを持つことができました。私は逆境の中にこそ夢があると信じています。県民一丸となって復旧・復興を成し遂げたいと思いますので、引き続き皆さまのご支援とご協力をお願いします。

# 支援決定と合意書締結

本震の3日後には、緊急支援策を発表。

4月15日 被害状況調査のため先遣隊を派遣

4月19日 93億円の支援を決定

本震発生から3日後、民間が持つ機動力と柔軟性を発揮して一刻も早い支援策を実行することを目指し、総額93億円の緊急支援策を発表。被災した皆さまが復興に対して前向きな気持ちになるためには、支援表明は早期であるほどよいとの判断によりこのタイミングで発表しました。

## 熊本地震緊急支援策(総額93億円)

1. 緊急対策支援:3億円
2. NPO・ボランティア活動支援:10億円
3. 住宅損壊等への見舞金支給:20億円
4. 住宅・事業再建資金への融資制度創設:30億円
5. 熊本城再建支援:30億円
6. 「日本財団災害復興支援センター 熊本本部」の開設

※上記は2016年4月19日の記者発表時点の想定支援額

4月26日 熊本県と災害支援の合意書を締結

県庁前に災害復興支援センター熊本本部を開設

4月19日に発表した93億円に上る熊本地震の緊急支援策について、熊本県と災害支援の合意書を交わしました。また、熊本県庁の目の前にあるビルに「日本財団災害復興支援センター熊本本部」も開設、支援に入るNPO・ボランティア団体との打ち合わせに活用し、行政との情報交換を密にして官民の連携による復興支援活動を本格化させる考えを示しました。



6月7日 大分県と災害支援の合意書を締結

大分県へも被害が広がったことから、広域的な復興支援に本格的に取り組むため、大分県とも災害支援の合意書を締結しました。この合意書に基づき、大分県と連携を密に取りながら、住宅損壊(全壊・大規模半壊)に対する見舞金の支給、住宅・事業再建資金のための融資支援制度(わがまち基金)の創設、NPO・ボランティア団体の活動支援を中心に、大分県での復興支援を行うことになりました。

①記者発表を行う日本財団 笹川会長 ②合意書に署名する日本財団 笹川会長(左)と熊本県 蒲島知事(右)  
③調印した合意書を持つ日本財団 尾形理事長(左)と大分県 広瀬知事(右)



# 熊本本部開設

## NPO・ボランティアの活動拠点の必要性。

2016年4月26日の熊本県との合意書締結と同時に、県庁前のビルに現地対策本部を設けました。NPOやボランティア、企業等の民間団体の復旧・復興活動が、行政との連携により円滑に実行できるよう、必要な支援を、より現場に寄りそった形で行う常設の事務所として開設しました。現地拠点確保により、多くのNPO、ボランティア団体の連携・情報交換のために役立てていただき、会議・集合スペースとして1年を通して延べ約5,000人にご活用いただきました。また被災された皆さまが日本財団へ弔慰金・見舞金を申請する際、スムーズな事務処理と安心できる環境が提供でき、申請窓口として1,356人を受け付けました。さらに行政との連携窓口としても機能しました。1年間を通し、日本財団の職員1名が常駐し避難所や仮設住宅を見回り、現地ニーズを正確に把握することにも役立ちました。熊本本部の運営にあたっては、九州地区競艇施行者協議会(北九州市、芦屋町、福岡市、唐津市、大村市の職員)、(公財)ブルーシー・アンド・グリーンランド財団、(公社)日本モーターボート選手会等、ボートレース業界の協力を得ました。



日本財団災害復興支援センター 熊本本部  
熊本市中央区神水1-3-1 ヨネザワ熊本県庁前ビル4階  
開設日:2016年4月26日(2017年5月7日閉鎖)  
センター長:梅谷佳明(熊本県出身)

### 役割と機能

- 1 被災地域の状況、ニーズの調査・取りまとめ
- 2 各種支援活動の情報の集約と各関係機関への共有、及び各活動へのコーディネート
- 3 被災地支援活動全般の情報収集及び発信業務
- 4 NPOやボランティア等民間団体の共有オフィス、会議スペースの供与
- 5 避難所への救援物資(飲料等)の支給等、被災者支援活動

①熊本本部で活用させていただいた車両 ②熊本本部で実施された足湯研修の様子 ③避難所で物資配布を行う熊本本部メンバー  
④⑥熊本本部で実施されるNPO・ボランティア団体による会議の様子 ⑤立ち上げ当初の熊本本部



# 発災直後の初動

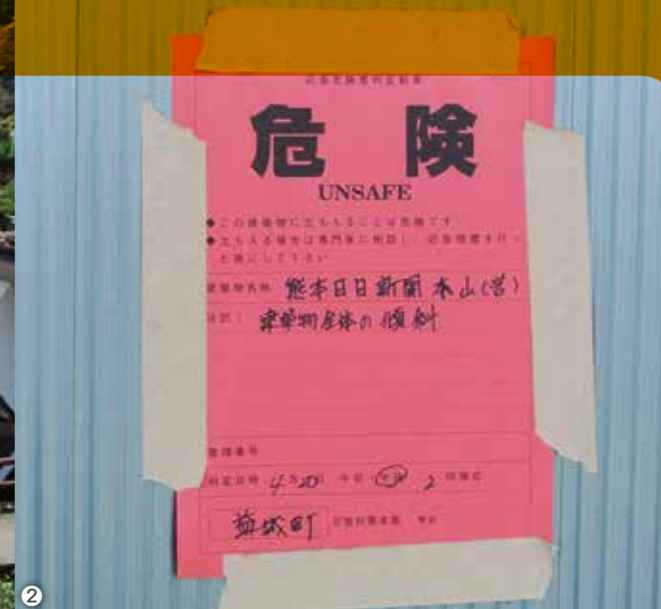
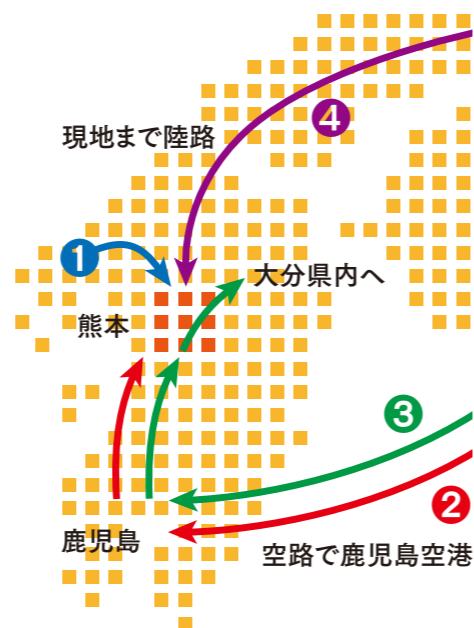
## 現地での的確な状況把握とボランティアコーディネート。

災害支援を行うにはまず正確に現状把握をすることが第一。日本財団でも被害の実態調査のために、先遣隊を派遣。災害発生時の初動対応を約束しているNPO団体等のメンバーとともに日本財団の職員も現地入りしました。九州新幹線も運行停止、高速道路も寸断されている中で、本震のあった16日からは熊本空港が閉鎖され、限られたルートを使いながら被災地域へと向かうことになりました。

2016年4月14日	21時26分	最大震度7の前震発生(熊本県益城町)
2016年4月15日		前原氏(災害NGO結)が陸路で益城町に到着し避難所を巡回し被災状況確認。 李氏(にいがた災害ボランティアネットワーク)が新潟から東京へ移動。野村氏(同)と合流。
2016年4月16日	1時25分	最大震度7の本震発生(熊本県益城町、西原村) 前原氏は益城町にて本震に遭遇。住民に食料、物資等を配布。夜明けより益城町、西原村、大津町、南阿蘇村の被災状況確認に奔走。
	4時30分	日本財団橋本、早朝の臨時熊本便に搭乗し熊本行きを計画するが、欠航となり鹿児島空港から熊本へ。 鹿児島で李氏、野村氏と合流。他の先遣隊と連絡を取りながら、八代市、宇土市の被害を確認し、夕方に熊本市着。
	19時00分	日本財団職員4名(黒澤、沢渡、信氏、川路)が災害専用車両に資機材、水、ガソリン等を搭載し、東京有明港から北九州新門司港に向けフェリーで出航。
	20時00分	日本財団先遣隊を含む5団体が熊本市内で合流し、初の支援者情報共有会議(後の火の国会議)を開催。
2016年4月17日		橋本、熊本市の被害状況確認後、熊本県庁、熊本県社会福祉協議会で打ち合わせ。益城町、大津町、西原村の被害状況を確認。 前原氏、日本財団の指示で情報が不確かな産山村、南阿蘇村へ向かう。以降、阿蘇地域の調査へ。 柴田氏(とちぎボランティアネットワーク)が空路で鹿児島に到着。宮崎で物資調達後、熊本到着。
2016年4月18日		橋本、李氏は一旦帰京。橋本は現地の状況報告および緊急支援発表の準備を急ぐ。 黒澤ほか3名が北九州から陸路で熊本到着。熊本市で支援活動にあたった後、夜に益城町到着。
2016年4月19日		日本財団、東京で緊急支援を発表。黒澤ほか3名は益城町で支援活動を開始。 14日深夜に佐賀を出発して熊本に来ていた鈴木氏(被災地NGO協働センター)が日本財団の先遣隊に加わる。その後、大分県竹田市、由布市、別府市へ向かい被害状況を確認。
2016年4月22日		日本財団尾形、前田、福田、青柳、梅谷、本田熊本入り。

先遣隊として被災地に入ったメンバーはそれぞれの活動地域を決め、熊本県益城町、西原村、大津町、南阿蘇村等で被災状況の確認を行い、避難所で避難者数、避難生活ニーズの確認を行いました。また県庁、社会福祉協議会等も訪問し、今後の対応について情報交換も行いました。激しい余震が続き、避難所では情報が錯綜。倒壊家屋により道路も寸断して土砂崩れや地割もある中で調査は困難を伴いました。

- ① 被災地NGO協働センター 鈴木
- ② 日本財団 橋本  
にいがた災害ボランティアネットワーク 李/野村
- ③ とちぎボランティアネットワーク 柴田
- ④ 災害NGO結 前原



2016年4月18日に熊本県に到着した日本財団の黒澤、沢渡、信氏、川路の4名は、益城町に拠点をおいて支援活動を開始しました。居住者や歩行者に対する二次被害の注意喚起を目的として、建物に対してなされる応急危険度判定ですが、赤い「危険」の紙が1度貼られた建物は、その「危険」要因がなくなってもボランティアが派遣されず、被災者が自力での対応を余儀なくされることが多くあります。こういった建物や、やむを得ない事情で自宅で避難生活を送る被災者、政教分離原則が壁となって支援が入りにくい神社等、公助や一般ボランティアの支援が届きにくい場所を中心に、益城町、西原村、南阿蘇村等で活動を実施しました。

- これまで行ってきた主な活動
- 「危険」判定のまま手付かずの家屋内の重要書類、位牌、貴重品等の財産保護
  - 「危険」判定家屋の危険除去、応急措置等の対応
  - 在宅避難者への生活環境改善等の支援
  - 被災した社寺、墓地、石碑等の復旧
  - 二次災害(平成28年6月豪雨)対応
  - 道路啓開 等

① 益城町 被災家屋 ② 全壊認定された家屋に貼られた赤紙 ③ 重機を使って倒壊した納屋から農機具を出す様子

# 弔慰金・住宅損壊見舞金

被災者が手元ですぐに使える現金を。

## 弔慰金・住宅損壊見舞金 47億8,570万円

震災で亡くなられた方のご遺族・ご親族に一人あたり10万円の弔慰金をお渡ししました。また、住まわっている住宅が全壊・大規模半壊の被害に遭われた方に対して、一世帯あたり20万円の住宅損壊お見舞金をお渡ししました。

### 弔慰金 221名 (直接死49人(※)、関連死167人、二次災害死5人) ※ご遺族がいらっしゃらず、1名が未申請

熊本本部で受け付けし、ご申請いただいたご遺族・ご親族の方に弔慰金を直接または現金書留の郵送でお渡しさせていただきました。関連死の認定がされた方(直接的な被害ではなく避難生活による疲労や持病の悪化等で亡くなられた方)にもお渡ししました。

### 住宅損壊見舞金 23,818世帯 (全壊11,544世帯、大規模半壊12,274世帯)

対象の方にもれなく申請書類をお渡しできるよう、各自治体が罹災証明書発行の窓口を設置と同時に申請書類も窓口を設置。申請受付は、熊本本部での窓口対応に加え、東京に専用の事務局を開設して対応しました。過去例のない多くの余震が発生したこともあり、支援を発表した当初予想の2倍を超える住宅が被害に遭われ、迅速なお渡しに難しい時期もありましたが、熊本県・大分県との災害支援の合意書に基づき、各自治体の窓口と連携しながらお渡しさせていただきました。(最終振込予定日:2017年5月26日)

弔慰金・見舞金ともに2017年3月31日までに申請をいただいた方に対してお渡ししています。

①熊本本部にて住宅損壊見舞金について説明する本部メンバー ②益城町の被災家屋 ③弔慰金を渡す日本財団 笹川会長



# 緊急対策支援

避難所と災害ボランティアセンターの運営を支援。

4月19日に発表した緊急支援策93億円の内、3億円を予定した緊急対策支援では、災害現場において特に緊急度の高い支援を実施するもので、避難所や自宅で避難生活を続けている障害者や高齢者、乳幼児などの特別な配慮が必要な人に対する支援に加え、災害ボランティアセンターを立ち上げた社会福祉協議会への支援等を実施しました。

No.	事業内容	助成先	場所	助成金額
1	要援護者が多い避難所・福祉施設に医師や保健師等の医療専門職のチームが無水無臭のラップ式トイレを設置(387個/100カ所)。	(特)災害医療ACT研究所	熊本県内	137,300,000円
2	医療ケアが必要な子どもと家族の避難生活支援、自宅復帰生活支援の実施。	熊本小児在宅ケア・人工呼吸療法研究会	熊本県熊本市	31,360,000円
3	被災地の相談員や行政、福祉関係者等と協力して、被災した要援護者の支援ニーズを効率的に調査・集約し、被災地内外の支援者と連携。	(特)日本相談支援専門員協会	熊本県熊本市、益城町	35,126,620円
4	聴覚障害者に対し、手話通訳者などの専門家を配置・派遣することによる、生活支援・相談支援の実施。	(一財)全日本ろうあ連盟	熊本県内	6,900,000円
5	在宅避難をしている障害者の方を中心とした戸別訪問や、施設に福祉専門職員を派遣し、障害者や高齢者のケアの実施。	(特)み・らいず	熊本県御船町	18,650,000円
6	熊本市災害ボランティアセンター設置運営。資機材などの購入。	(福)熊本市社会福祉協議会	熊本県熊本市	9,990,000円
7	西原村災害ボランティアセンター設置運営。被災家屋の片付けや避難所支援、農業復興支援に関するボランティア活動のコーディネート。	(福)西原村社会福祉協議会	熊本県西原村	8,360,000円
8	南阿蘇村災害ボランティアセンターサテライトに運営スタッフの配置および備品購入などの環境整備。移送支援、付添支援などの実施。	(福)南阿蘇村社会福祉協議会	熊本県南阿蘇村	9,960,000円
9	ボランティアセンターの立ち上げ・運営支援およびボランティア派遣の実施。	(特)静岡県ボランティア協会	熊本県嘉島町、西原村	4,700,000円
10	臨時災害放送局による町内被災者への情報提供。地震情報、生活再建に繋がる情報、警報・注意報などをラジオおよびインターネットで提供。	益城災害FMボランティア連絡会	熊本県益城町	7,160,000円
11	被災地における車中泊者の状況調査およびトレーラーハウスを利用した車中泊者のケアの実施。	(一社)危機管理教育研究所	熊本県益城町	18,000,000円
12	避難所および仮設住宅における高齢者のためのリハビリテーションプログラムの実施。	熊本県復興リハビリテーションセンター	熊本県内	13,500,000円
13	震災関連死等の被害拡大防止を目的とした、避難所および在宅避難者の状況調査、および被災者支援拠点としての避難所運営支援の実施。	日本財団(自主事業)	熊本県、大分県	51,147,943円
合計				352,154,563円





## 避難所への簡易トイレ設置

### 心理的負担を和らげる支援。

多くの人が1つの避難所集まる大規模災害では、トイレ設備の不備・不足が被災者のストレスにつながります。段差が多く外に設置されることが多い仮設トイレは敬遠されがちで、トイレを我慢するために水分を控えるうちに深部静脈血栓症いわゆるエコノミー症候群になってしまうケースも報告されています。東日本大震災の経験の中で災害医療のスペシャリストに支えられて発足した(特)災害医療ACT研究所は、このトイレの使いやすさと衛生面の問題の解決するために、自動ラップ式トイレ「ラップポン」(\*)を地震直後から各避難所に設置しました。医師を含む延べ246名が一カ所ずつ1つ1つの避難所の状況を個別に確認し、使用方法を説明しながら設置。最終的には熊本県内100カ所の避難所に387個のトイレを設置しました。トイレの使いやすさと衛生の問題は、避難生活でもっとも早く解決すべき最重要課題です。東日本大震災の知見を活かし、いち早く支援を決定しました。

※「ラップポン」は日本セイフティー株式会社の製品です。

助成先:(特)災害医療ACT研究所/助成金額:137,300,000円/期間:2016年4月19日~5月31日/  
場所:熊本県内

①発災から10日ほど後の避難所の様子 ②設置されたラップポン(右) ③被災者の方々にラップポンの使い方を説明

## 子どもの医療ケア

### ケアが欠かせない子どもたちを支援。

日常的に人工呼吸器やたんの吸引等が必要な子どもたちは、一般の避難所での生活が難しく、医療機関も被災して受け入れが限られている状況がありました。医療ケアが欠かせないこうした255人の子どもたちのために、熊本小児在宅ケア・人工呼吸療法研究会では子どもと家族に対する支援を行いました。熊本市民病院の職員住宅2階を間借り(後に、熊本市内の小児科隣接地に移動)し、常駐専門職(医療、福祉、保育等)スタッフによる子どもの一時預かりを開始。同時に在宅の訪問診療や看護、介護等を実施しました。週末には氷川町の自然に囲まれたロッジでも一時預かりを行い、発災以降、緊張状態が続いていた親子へ安心して遊べる環境を提供しました。またご家族の生活再建を支援するため、仮設住宅への引越し、自宅への復帰サポートなど様々な活動を行いました。

助成先:熊本小児在宅ケア・人工呼吸療法研究会/助成金額:31,360,000円/  
期間:2016年5月7日~約11カ月/場所:熊本県内

①②③ことことらんど子ども医療ケア避難所



## 避難状況の調査と分析

### 在宅避難者の実情と要望を調査。

個別の支援活動の前に、支援対象地域のニーズの総量を把握するとともに、既存のデータやこれまでの災害支援の知見から、今後発生するニーズの分析を行いました。避難生活での被害の拡大を防ぎ、次のステージへの移行支援を目的として、避難所在住の避難者や在宅避難者についての状況調査、避難所や建設される仮設住宅団地のアセスメントを実施しました。

### 自ら声を上げられない、本当に助けが必要な人へ。

日本財団は2014年の広島土砂災害の支援の経験から、(特)み・らいずと共に、災害時における障害者支援のあり方を調査・研究しています。その一環として(特)み・らいずは地震直後の4月15日に熊本入りし、多くの在宅避難者がいることが見込まれた熊本県御船町で活動することを決定しました。6月中旬頃まで日常的な介護が必要な在宅避難者686名を対象として戸別訪問を実施し、障害者を中心にニーズ把握を行いました。本当に助けが必要な人は声を上げることも難しくこちらから手を差し伸べることが必要です。この訪問活動は7月まで継続し、不安の大きい方には再訪し、保健センター、DPAT(災害派遣精神医療チーム)等の支援者へつなぎました。日本財団はこの(特)み・らいずの御船町での支援活動を助成しました。



### 戸別訪問での被災者ニーズ調査を行いました。

また、日本財団は自ら行う支援事業として、4月16日に要援護者への支援活動を決定しました。4月24日から大分県別府市、4月25日から由布市の避難所の支援を開始し、4月30日には特に被害の大きかった熊本県益城町で重点的に支援することを決定しました。更に5月17日には、南阿蘇村立野地区の住民が広域避難している熊本県大津町の避難所の支援も決定。調査・分析の結果をもとに、避難所の運営支援や、不足している災害弱者向けの物資支援等、避難者の生活環境の改善を行いました。

#### ●第1回益城町調査 5月5日～8日

避難所を利用する225世帯(647人)に家屋の被災状況や避難所の住環境、医療食事、退去見通し等の聞き取り。避難者数の多い7カ所の避難所(避難者総数約3,000人)を訪問して施設・備品の整備状況や避難者支援の状況を調査。

#### ●第2回益城町調査 5月14日～29日

在宅避難者1,243世帯(3,195人)に対する訪問調査。

#### ●第3回益城町調査 7月29日～8月5日

町内避難所利用者で、8月以降も避難所を継続的に利用することを予定している364世帯(915人)について避難所利用者の実態調査と、建設中の仮設住宅団地の環境アセスメントを実施。

助成先:(特)み・らいず/助成金額:18,650,000円/期間:2016年5月1日～7月13日/場所:熊本県御船町

日本財団(自主事業)/業務委託金額:51,147,943円(※)/期間:2016年4月19日～10月31日/場所:熊本県益城町、大津町、大分県由布市、別府市

※「夢の貯金箱」に寄せられた寄付金を使用し、一部業務委託して支援を実施しています。

①益城町 被災者の方々に直接状況をうかがう調査員 ②ボランティアに調査について説明 ③ボランティアが一軒一軒訪問 ④丁寧な聞き取り調査を実施

# 熊本城再建支援

## 復興の象徴としての文化財支援。

2016年4月26日に、地震によって被害を受けた熊本城へ30億円の支援も表明しました。熊本城は築城から400年以上の歳月を経て、常に市民・県民を見守ってきた存在であると同時に、貴重な国家的財産であり、観光資源の柱でもあります。城の復旧は、復興のシンボルでもありと考え、文化財の支援としては過去最大規模の支援額を決定しました。その後、1年をかけて熊本県、熊本市と協議し、天守閣内展示施設の再建、「しゃちほこ」の復元・製作など6年で合計30億2,505万円を支援することにしました。

## 熊本城再建のための支援

「5億円×6年 2017年から6年間(予定)」

現在、立入り禁止となっている熊本城に、1日も早く、多くの熊本県民、また観光客の方々が天守閣まで行くことができるよう支援します。

- 1 熊本城天守閣内展示施設等の整備
- 2 旧細川刑部邸修復(予定)
- 3 西大手門等復元建造物修復(予定)

## 熊本城天守閣「しゃちほこ」の復元・製作

「2,505万円 2017年8月から熊本市役所にて展示(予定)」

熊本城の象徴的部材である「しゃちほこ」を復元・製作して贈呈します。



①

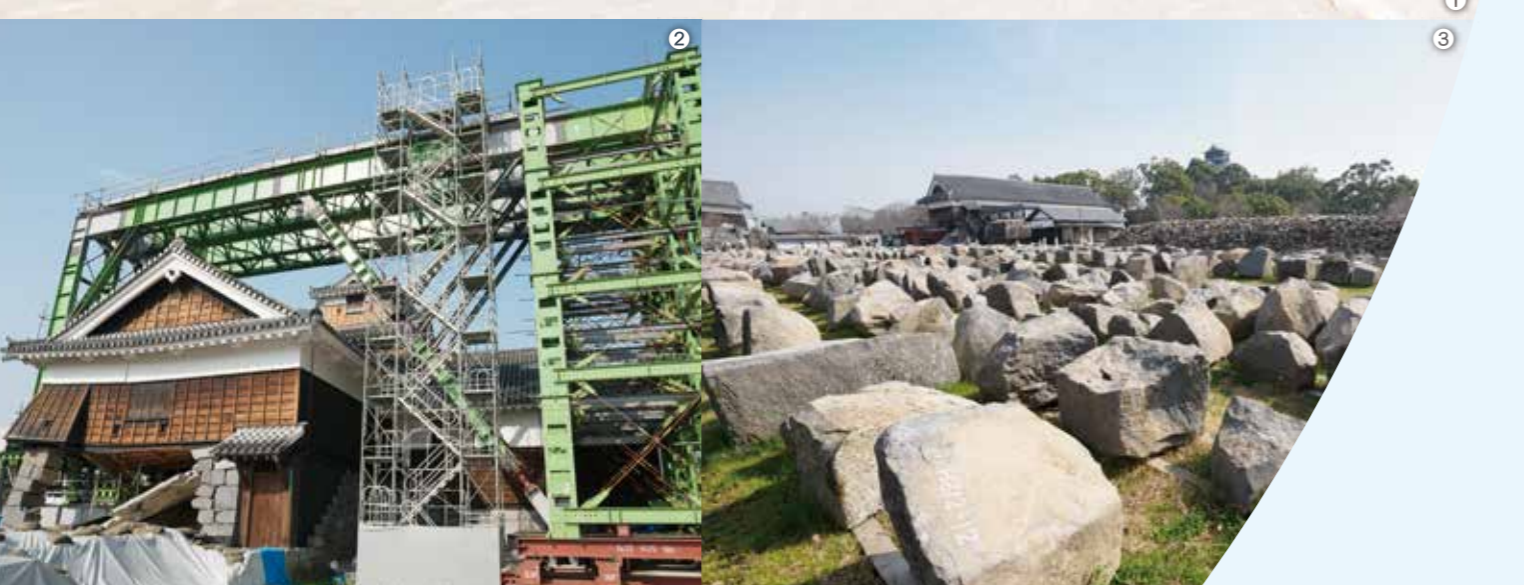
- ① 2017年4月10日記者会見にて「しゃちほこ」の復元・製作を発表
- ② 熊本城小天守閣にあった「しゃちほこ」(熊本城総合事務所提供)
- ③ 震災後、天守閣の「しゃちほこ」は破損



②

③





# インタビュー

## 熊本県民の誇りを、取り戻す。

大西一史 熊本市長

熊本城がいつも見える場所に熊本市役所があります。日本財団が表明した熊本城支援について、大西熊本市長にインタビューをさせていただきました。



### 被災した無残な天守閣と、支援による希望

2016年4月16日の朝、避難所や被災者への対応を最優先し活動していた合間に、夜明けの光を浴びた熊本城の天守閣が、市役所の窓から見えました。ポロボロに傷つき、しゃちほこもない、普段と全く違う姿。ショックでした。お城全体に深刻な被害が及んでいるのは容易に想像できました。そんな中、4月19日に日本財団から熊本城再建のための支援(30億円)が発表されました。熊本のシンボルである熊本城への支援は、復興を成し遂げていく中で必ず精神的な支柱となるものです。みんな非常に勇気づけられました。我々自身がまだそこに気持ちに至らない中、まさに絶望の中で希望を見出すような出来事でした。県民は誰もが人生をお城と共に歩んでいます。人生の節目節目でいつもみんなを見守ってくれている。それが当たり前だったのです。被災して改めて、その存在の大きさに気付かされました。加藤清正公が建てた難攻不落のお城が崩れたということは、精神的な支えを失ったということ。4月26日には日本財団と県との協定も発表され、感謝と同時に、市民の生活再建をいち早く進めなくてはいけない責任を感じました。

### 支援の流れを作った、いち早い支援表明

日本財団からは、熊本城だけでなくNPO・ボランティア活動への支援、弔慰金・住宅損壊への見舞金、住宅・事業再建への支援、熊本市に支援本部を立ち上げて被災地を回っていただく等、きめ細かくニーズを拾い対応していただいています。日本財団から極めてスピーディな支援表明をいただいたことが、その後の多くの支援の突破口となったのではないのでしょうか。熊本城は復興城主という制度を2016年11月にスタートしました。現時点で6万件を超える皆さんのサポートをいただき、こうした長期の支援にもつながったと感じており、心から感謝しています。

### 熊本から復興の生き様を全国に発信したい

全国の皆様、特に自治体トップの皆様には、災害は必ずやってくるのだという危機感を訴えたいです。この経験を、ぜひ多くの皆様と共有したいと考えています。私はいま、各地に講演にも行っています。生々しい経験談を聞きたい、ということであれば、身体が続く限りお応えします。大切なのは人のつながり。全国の皆様と経験を共有しながら、ボランティアの輪も広がってほしいと考えています。復興の生き様を全国の皆様に見ていただきたいし、熊本にもぜひ訪れていただきたいと思います。

①天守閣の本格復旧工事に向けた仮設スロープも建設 ②飯田丸五階櫓の倒壊を防止するための鉄骨アーム ③崩れた石垣はひとつひとつナンバリングして並べられ、復旧の時を待つ

# NPO・ボランティア活動支援

## 災害時のNPO・ボランティアの活動を活性化。

災害現場の復旧・復興支援において、NPO(非営利活動団体)やボランティア団体等も、被災者・被災地のニーズに基づき様々な活動を行っています。日本財団では、地震直後から全国の皆さまからお預りした寄付金を活用し、こういった支援団体が緊急支援活動を行うために必要な経費を支援し、より多くの団体が熊本の被災地で活動するための環境整備を行いました。

支援先:318団体、347事業／支援金額:316,610,022円(※)／期間:2016年4月19日～2017年3月31日／  
場所:熊本県内、大分県内の被災地  
※内訳:災害復興支援特別基金(平成28年熊本地震支援)234,180,022円、夢の貯金箱82,430,000円(2017年3月31日時点)

①日本モーターボート選手会も募金集めに協力 ②避難所での炊き出し ③訪問ケアの様子

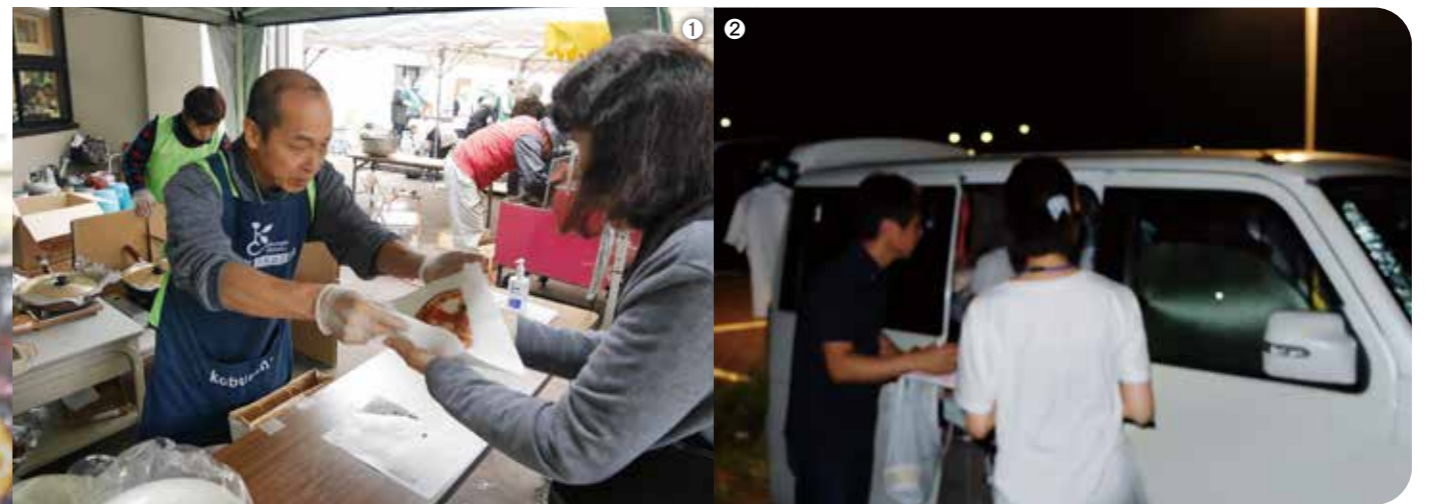


## 炊き出しやボランティア派遣・車中避難緊急実態調査

支援先:(一社)よか隊ネット熊本[熊本県熊本市]  
活動場所:熊本県内

(一社)よか隊ネットは、熊本地震後に地元市民団体の力を結集して対応すべく結成されたネットワーク組織で、9団体で発足しましたが、2017年4月現在では88団体が加盟しています。駐車場で炊き出しや車中泊避難者へのアンケート調査、避難所の夜間の見回りなど、公的支援の届かない方々へ「顔の見える支援」を大切にサポートを行ってきました。また、被災者だけでなく、支援活動を行う団体を集めて情報共有会議を開催し、地元市民団体への相談支援、新しい地域づくりの支援を行う等、復興期を見据えた支援活動を展開しています。

①ボランティアによる炊き出しの様子 ②車中泊の方々のアンケート調査



## 被災した母子へのサポート

支援先:マザー&アースくまもと[熊本県熊本市]  
活動場所:熊本県熊本市、益城町

マザー&アースくまもとは、熊本市内で産後ケアに特化した活動を行っていた助産院が「熊本地震で傷ついたママたちのこころを癒したい」という思いで発足させた団体です。余震も多く、不安から母乳が出なくなったり、小さなお子さんを連れていて避難所で居場所がない方も多くいらっしゃいました。こうした様々な困難のなか子育てをしている母子の心身ケアのため、助産院をベースに各避難所、仮設住宅等にも出張して、相談支援や母子で楽しめるイベント開催などの支援を行いました。

①子育てママへのヨガ教室 ②乳幼児とママ自身のケアについて講習会を開催



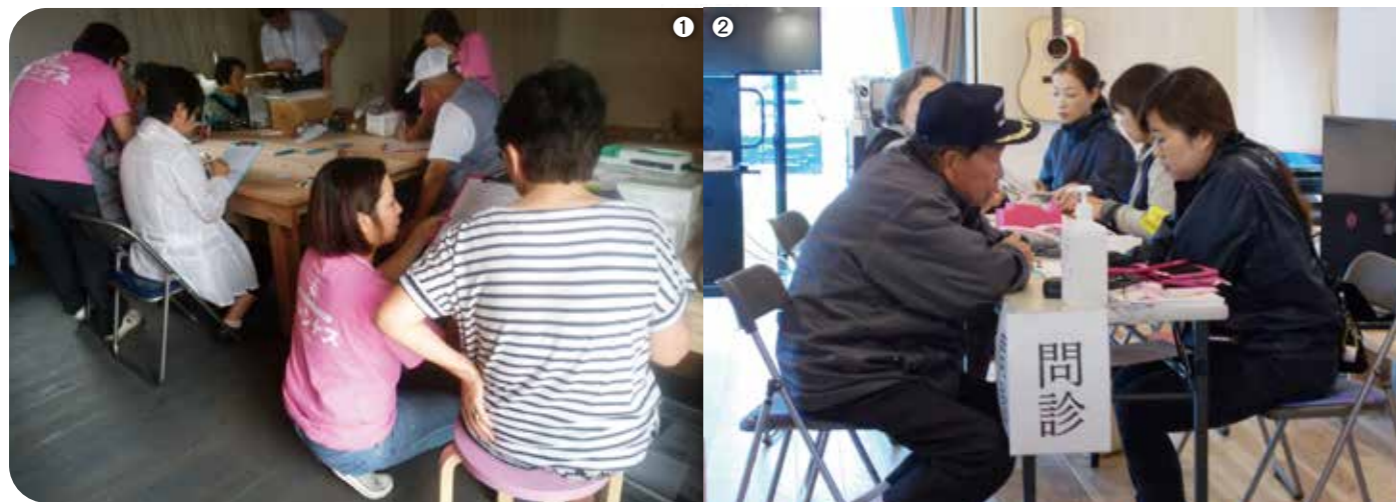
## 避難所における見守り支援

支援先：(特)キャンナス[神奈川県藤沢市]

活動場所：熊本県益城町

(特)キャンナスは阪神・淡路大震災以来20余年、全国100カ所以上の拠点で活動している団体です。今回の震災でも発災当初から避難所に駆けつけ、被災した方のサポートを行ってきました。災害支援ナースとして東日本大震災でも活動した経験を活かし、支援の隙間を埋め、現場の皆さまが夜は帰宅して休息を取れるよう4カ所の避難所で夜勤を担当。子どもの発熱の対応等、ナースならではの活動に従事。病気などが重篤化する前に医師への診断を促すなど、被災者一人ひとりの声に耳を傾け心理的な面もサポートできるよう活動を行いました。

①② 避難所での活動の様子



## 看護の知識・技術を活かした救援活動

支援先：(特)災害看護支援機構[兵庫県神戸市]

活動場所：熊本県西原村

(特)災害看護支援機構は、看護の知識・技術を活かした救援活動を行うべく、国内・海外問わず災害が発生した際には被災地支援活動を行っています。熊本地震でも早期に西原村の西原中学校避難所、その後地域統括支援センターに入り、被災者とのさりげない会話の中から本当のニーズを見出し、自身も被災した地元統括者のサポートや、災害関連死の予防のために活動を行いました。メンバーが交替しても不都合がないように詳しく日報を付けて受け渡し、被災地の今後のために、あくまでも現地の方がメインで活動できるよう、トイレ掃除を率先して行うなど、陰でサポートする役割に徹して活動しました。避難所閉鎖後、被災者が仮設住宅に移ってからも、同様の方針で活動を行いました。

①② 仮設住宅団地での活動の様子



① 右腕プログラムメンバーへのインタビュー ② 南阿蘇村での活動

## 地域復興活動のリーダーを支援する“右腕”をマッチング

支援先：(一社)フミダス[熊本県熊本市]

活動場所：熊本県熊本市、阿蘇市、南小国町、益城町、南阿蘇村、西原村

熊本の復興、未来のビジョン実現に向けて立ち上がる現地のリーダー達。彼らをサポートするいわゆる“右腕”をマッチングし、二人三脚で事業を推進するのが(一社)フミダスの「熊本復興・右腕プログラム」です。南阿蘇村で「地域一体型の福祉モデル」の実践を目指していた南阿蘇ケアサービスでは、被災後に“右腕”を要請。被災した職員や利用者の方をケアしながら、“右腕”とともに新たにコミュニティカフェ等の取り組みをスタートし、人々の交流から復興に向けた福祉のモデルづくりを進めようとしています。(一社)フミダスでは、この他、4名の右腕をマッチングするなど、熊本の復興を後押ししています。

その他NPO活動のご紹介



足湯ケアを施す(特)小町ウイングから足湯ケアとその効果について実技講習を受けるボランティアナースの方々



(特)M.O.S.C.Oは仮設住宅で暮らす被災者の方々の「心のケア」のために交流会を企画



(一社)ACTくまもとは、仮設住宅のコミュニティ施設で「おしゃべり」カフェを開催



Noroshi西原では「花を通じて住民同士、ボランティアの方とも会話が弾む手助けになれば」と、復興のメッセージを添えて発信

NPO・ボランティア活動支援で行われた支援活動は、WEBサイト「いまでできること」でも発信しています。  
URL： <http://imadekirukoto.jp/> (サイト運営：(公社)助けあいジャパン)

# 学生ボランティア派遣

多くの人々を勇気づける若い力の活躍。

学生ボランティア育成に取り組んでいる日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)は、2011年の東日本大震災を機に、被災地に派遣する学生ボランティアをチーム「ながぐつ」プロジェクトと称して活動しており、今回の熊本地震においても延べ197名の学生ボランティアを派遣しました。被災家屋からの家財道具や農機具の搬出、瓦の片付け、土嚢設置、ニーズ調査等多岐にわたる活動を行いました。

今回はボランティア派遣の集合・出発地点を博多、新大阪、仙台の3カ所に分けました。全国各地から学生ボランティアを派遣することは初めてでしたが、東日本大震災を経験した東北の学生から、「お世話になった恩返しをしたい」と多くの希望者が集まり、熊本から遠く離れた仙台にも出発拠点を設けることとなりました。被災した地元の方々から、一生懸命でひたむきに活動する若い学生ボランティアに対し、「勇気・元気をもらった」「来てくれただけでもありがたい」等の声をいただきました。



学生ボランティア派遣

学生ボランティア派遣

	日程	活動場所	派遣人数
第1陣	2016年5月21日～22日	益城町	9名
第2陣	2016年5月28日～29日	益城町	19名
第3陣	2016年6月10日～13日	益城町	36名
第4陣	2016年6月25日～26日	益城町	29名
第5陣	2016年7月16日～17日	益城町	19名
第6陣	2016年8月 1日～ 5日	益城町	20名
第7陣	2016年8月22日～26日	南阿蘇村	29名
第8陣	2016年9月 5日～10日	益城町	19名
第9陣	2016年9月17日～21日	益城町・西原村	17名
		合計	197名

助成先：(一財)日本財団学生ボランティアセンター／助成金額：12,826,000円／  
期間：2016年5月21日～9月21日／場所：熊本県益城町、西原村、南阿蘇村

①土嚢作り作業 ②真剣な表情で説明をうける学生ボランティアたち



## 企業からの支援

### 重要度を増す、企業が果たす役割。

東日本大震災以降、災害復興において企業が果たす役割がさらに大きくなっています。物資や資金提供はもちろん、ボランティア等のマンパワーや企業の得意分野を活かした支援も多く行われています。日本財団ではそういった企業からの支援の申し出を熊本地震の被災地のニーズにつなげ、様々な企業の「支援したい」という思いを被災地へ届けました。

余震が少し落ち着いた6月に企業向けの説明会を実施し、50社を超える参加企業に向けて緊急支援ボランティアの呼びかけを行いました。ボランティアニーズが多かった9月末までに企業6社から延べ約180名のボランティアを、益城町を中心に派遣。10月には復興期を見据えた活動報告会を実施し、今後の復興に向けた企業の中長期的な支援を呼びかけました。日本財団は、支援したい側と支援を必要としている側のハブとなり、必要な支援が必要な時期に必要な場所に届くよう、働きかけています。また、企業からの支援金をお預かりし、被災地のニーズにあった支援を企業の皆さまとともに考え実行しています。

① 企業から派遣されたボランティア

### キリングループ

## 復興応援キリン絆プロジェクト

2016年12月21日、日本財団は熊本県の掲げる「創造的復興」に向けて、熊本県、キリングループと3者で包括的支援協定を締結し、キリングループからの寄付による基金を設置しました。(基金総額:225,528,806円) このプロジェクトでは、キリングループが掲げる「絆を育む」をテーマに、「食産業復興支援」「地域の活性化支援」「心と身体の元気サポート」の3つの幹で地域に寄り添う支援を推進します。また、熊本県の「平成28年熊本地震からの復旧・復興プラン」とも連携し、行政、民間企業、公益社団法人が一体となって、より包括的かつきめ細かな支援を行うことで、熊本の復興から未来へとつなげる創造的復興の実現をめざします。

	熊本県の復旧・復興プラン	絆プロジェクト
【テーマ1: 農業・畜産支援】	「次代を担う力強い地域産業の創造」	× 「食産業復興支援」
【テーマ2: 観光・地域活性化支援】	「未来へつなぐ資産の創造」	× 「地域の活性化支援」
【テーマ3: 被災地域コミュニティ支援】	「安心で希望に満ちた暮らしの創造」	× 「心と身体の元気サポート」

### これまでに決定した4つの支援

事業内容	支援先	場所	支援金額
被災地における子ども向けイベントに関する支援	熊本フェリー株式会社、(一社)グローバル人材育成推進機構、新日本海サービス株式会社	熊本県全域	669,218円
『世界文化遺産』を目指す阿蘇エリア草原再生プロジェクト	(公財)阿蘇グリーンストック	阿蘇地域	4,500,000円
なでしこジャパン熊本地震震災復興マッチにおける被災地の子ども達への支援事業	(一社)熊本県サッカー協会	熊本県全域	2,000,000円
地域支え合いセンターと連携したコミュニティづくり支援プロジェクト	くまもと災害ボランティア団体ネットワーク(KVOAD)	熊本県全域	10,000,000円
		合計	17,169,218円

② 三者で調印した協定書を示す(左から)キリン株式会社 橋本取締役、熊本県 蒲島知事、日本財団 尾形理事長





フィリップ モリス ジャパン合同会社

## 中高生学習・キャリア支援「ましき夢創塾」

甚大な被害を受けた熊本県益城町では2校ある中学校も大きな被害を受けました。5月9日に再開した授業も隣接する小学校の教室を借りた応急的な再開となりました。体育館が被災するなど、部活動もままならず、自宅が全半壊し避難所生活となる生徒も多い等、通常の学校生活を送れない状況が長引くことが懸念されました。そういった状況に対しフィリップ モリス ジャパン合同会社から支援金の申し出がありました。

東日本大震災の被災地でも子どもたちの学習支援を行ってきた(認特)カタリバが、地震発生直後から益城中学校、木山中学校で生徒の居場所づくりと、学習面・心理面でのサポートを行っており、その活動継続のため、この支援金を活用することに決定しました。

放課後の居場所づくりは2つの中学校に加え、今回の地震で建設された最も大きい仮設住宅団地であるテクノ団地仮設(益城町)の集会所でも行っており、中高生が対象です。生徒が安心して学習を行える場所になるよう、スタッフと大学生ボランティアが常駐して運営しています。また、中学校が実施している職業体験等の様々な学校行事を先生と一緒に検討したり、東北の被災地の中高生との交流の場を設けたり、益城町の中高生が将来を考える上でのきっかけづくりも行っています。

支援先:(認特)カタリバ / 支援金額:30,000,000円 / 期間:2016年11月~2018年8月 / 場所:熊本県益城町

①②③みんなの家で行われている学習支援の様子



## ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会 復興におけるコミュニティ支援

発災から1年が経過し、被災者の生活の場も避難所や在宅避難の状況から、仮設住宅団地等へ移りました。日本財団では、復興期においても具体的なニーズ調査を実施し、生活再建に向けて仮設住宅団地内のコミュニティ形成支援や、復興まちづくり(区画整備事業等)への住民の主体的な関わりの支援を行っています。東日本大震災において仮設住宅のコミュニティ形成などの事業を支援するために寄付を行っていたジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会から、今回の熊本地震においても被災地の復興のための寄付の申し出がありました。この支援金で、「仮設住宅団地でのコミュニティ支援」と「復興まちづくりでの支援」の2つの軸で、被災地の復興に臨む地元の団体の支援を実施します。自治会主体による仮設住宅団地でのコミュニティ形成や、住民が復興まちづくりに主体的に関わる先例を作ることを目的とし、こういった取り組みがモデルとなって被災地各地に広がることを期待しています。

支援先:(特)子育て応援おきな木、(特)益城だいすきプロジェクト・きままに、南阿蘇復興支援センター、くまもと新町古町復興プロジェクト、東無田復興委員会、神楽の里をもちあげ隊 / 支援金額:4,963,928円 / 期間:2017年5月~2017年11月 / 場所:熊本県熊本市、益城町、南阿蘇村

日本財団(自主事業) / 業務委託金額:10,696,000円(※) / 期間:2016年12月1日~2017年11月30日 / 場所:熊本県内

※「夢の貯金箱」に寄せられた寄付金を使用し、一部業務委託して支援を実施しています。

①益城町の仮設住宅 ②被災した熊本城の城下町 ③南阿蘇復興支援センターでの会議の様子

# 住宅・事業再建資金への金融支援制度「わがまち基金」

## 住宅・事業の速やかな復旧を推進。

被災した住宅や事業の再建を加速するための金融支援制度「わがまち基金」を創設しました。住宅が損壊して住めなくなった被災者が住宅を再建・購入する際や、被災した事業者が事業を再開・再建する際に、それぞれ必要となる資金を指定の金融機関から借り入れる時の負担を軽減することを目的とした制度です。被災地の復旧・復興のためには、地域に住民が残り、暮らしていけることが何より重要であり、被災した住宅や地域コミュニティの再建および被災した事業者による生業再開と雇用の維持・創出が急務です。2016年度の住宅再建支援は、熊本県では199件、大分県では66件を決定しました。2016年度の事業再建支援は、両県の事業者による借入案件が3月末に固まったことを受け、2017年度に入ってから支援を決定していきます。

### ● 住宅再建支援等

#### 1. 住宅再建金融支援制度の構築と実施

住宅の再建・購入等に必要となる資金の借り入れをする際の利息負担を軽減する支援制度。

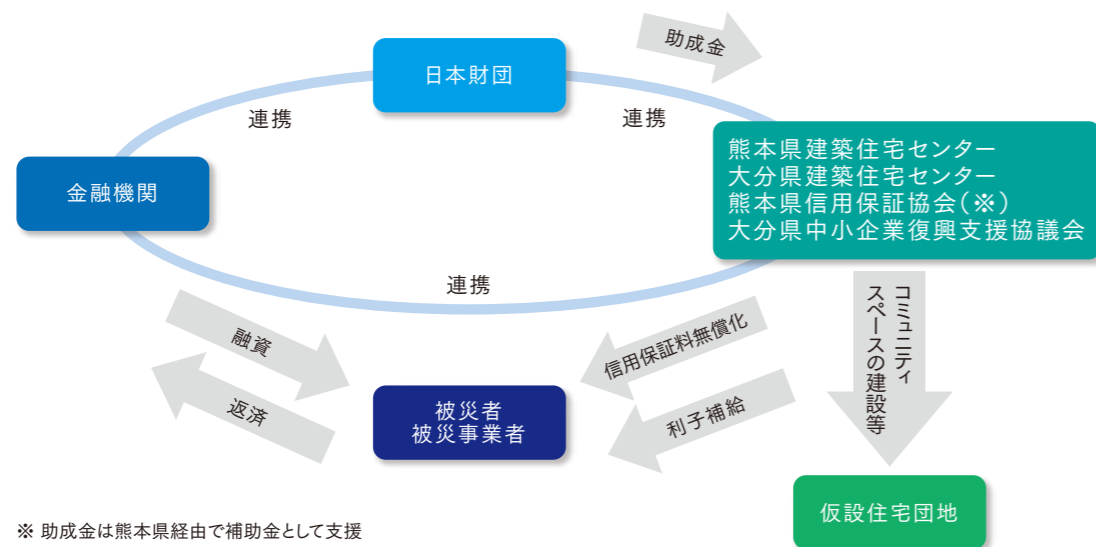
#### 2. 仮設住宅団地におけるコミュニティスペースの建設等(熊本県のみ)

- (1) 20戸未満の小規模仮設住宅団地を対象とした談話室等を備えたコミュニティ施設(みんなの家)の建設。(約40カ所)
- (2) 仮設住宅団地におけるコミュニティ構築のための住環境整備事業。(約90団地)

### ● 事業再建支援

被災した事業者の、事業の再開・再建等に必要となる資金の借り入れをする際の負担(利息及び信用保証料)を軽減する支援制度。

### 平成28年熊本地震への支援 わがまち基金 プロジェクトの仕組み



#### 【熊本県】

住宅と事業再建のための金融支援制度および仮設住宅の住環境整備(みんなの家の整備等)  
助成先:熊本県、(一財)熊本県建築住宅センター/助成金額:988,000,000円(第1期)

#### 【大分県】

住宅と事業再建のための金融支援制度  
助成先:大分県中小企業復興支援協議会、(一財)大分県建築住宅センター/助成金額:350,000,000円(第1期)

# 施設修繕事業

## 社会福祉施設等の再開をバックアップ。

日本財団では、過去に日本財団の助成を受けて建設された社会福祉施設等が被災した場合、建物の復旧および事業再開のための支援を行っています。今回の熊本地震の発生を受け、4月19日に被害が大きかった地域において被災状況調査を実施。現地訪問を行った上で、最終的に以下15事業への支援を決定しました。被災施設の修繕の他、本体施設工事が終わるまでの仮設設置も支援しました。地域にとって欠かせない施設の修繕を通して、被災地の子どもたちや障害者が日常生活を取り戻すための一助となっています。

事業内容	助成先	場所	助成金額
小規模多機能ホーム「大きなかぶ」の修繕	(福)敬愛会	福岡県上毛町	4,890,000円
障害者支援施設「第二明星学園」の仮設住居の建築	(福)御陽会	熊本県御船町	30,000,000円
保育所「聖母幼愛園」仮設園舎の建築	(福)聖マリア会	熊本県熊本市	30,000,000円
特別養護老人ホーム「照古苑」の修繕	(福)白日会	熊本県宇土市	30,000,000円
障害者支援施設「阿蘇くんわの里」および障害者就労センター「ウィルアークス」の機器整備	(福)やまなみ会	熊本県阿蘇市、熊本県産山村	11,160,000円
障害者支援施設「つくしの里」の修繕	(福)清和会	熊本県大津町	2,640,000円
ケアハウス「偕老苑」の修繕	(福)権現福祉会	熊本県八代市	28,830,000円
熊本県青年会館の修繕	(一財)熊本県青年会館	熊本県熊本市	28,960,000円
通所多機能型事業所「第二城南学園」の修繕および機器整備	(福)慶信会	熊本県熊本市	27,230,000円
軽費老人ホーム「暁荘」の修繕	(福)白川園	熊本県熊本市	9,120,000円
障害者地域活動支援センター「アンパ」の増築	(福)三気の会	熊本県大津町	25,360,000円
デイサービスセンター「いつものところ」の改造	(福)はるかぜ会	熊本県熊本市	26,360,000円
軽費老人ホーム「すずらん苑」の修繕	(福)天龍会	熊本県八代市	30,000,000円
小規模住居型児童養育事業所「宮津ファミリーホーム」の復旧	宮津ファミリーホーム	熊本県熊本市	2,110,000円
海洋センター施設の修繕	(公財)ブルーシー・アンド・グリーンランド財団	熊本県菊池市、大分県由布市	19,900,000円
合計			306,560,000円

①第二明星学園仮設住宅(建設中) ②聖母幼愛園 仮園舎





## 海洋イベント

親子に夏の思い出をプレゼント。

震災以来、自宅が被災した子どもたちの多くは避難所や仮設住宅等での不便な暮らしが続き、自粛ムードも相まって楽しむ時間が少ない日々を過ごしていました。子どもたちの心のケアの観点から、保護者の方も一緒に安心して楽しめるイベントが必要だと考え、4つのクルーズイベントを開催。普段体験できない帆船のクルーズ体験、海上からの花火見物、大型フェリーでの宿泊等、様々なタイプの海洋イベントをプレゼントしました。

参加者からは、  
 「まさか自分が被災するとは思っていなかったが、新しい出会いや経験ができた。家族のいい思い出になった」  
 「孫がまだ時々地震を思い出すのか、夜怯えて手を握って一緒に眠ることがある。こうして元気に参加できて本当にありがたい」  
 「なかなか出来ない体験をさせてもらい、子どもが目をキラキラさせながら話してくれた。子どもの成長を感じる」といった喜びの声を多数いただきました。

イベント 1	2016年8月12日 熊本港出港・帰港 「熊本みなとまつり」 参加232名(子ども116名 大人116名)
イベント 2	2016年8月25日 熊本港出港・帰港 「島原温泉ガマダス花火大会」 参加196名(子ども98名 大人98名)
イベント 3	2016年8月13日～17日、19日～23日 熊本港出港・帰港 帆船「みらいへ」日帰りツアー(計10回) 参加545名(子ども360名 大人185名)
イベント 4	2016年8月27日～28日 新八代港出港・帰港 大型フェリー「はくおう」で行く九州西海1泊2日クルーズ 参加283名(子ども185名 大人98名)

助成先:(公財)九州運輸振興センター、(一社)グローバル人材育成推進機構/  
 助成金額:79,718,477円/期間:2016年8月/場所:熊本県内

①②海洋イベント船から花火を鑑賞しよう ③大型フェリー「はくおう」で船長の帽子をかぶりかじを取る女の子  
 ④帆船「みらいへ」日帰りツアーに参加した子どもたち



# 鼎談「熊本地震の経験と今後」

## 地元の自立を促す支援の模索。

稲垣文彦：中越防災安全推進機構 震災アーカイブス・メモリアルセンター センター長

小多 崇：熊本日日新聞社 編集局編集委員室 編集委員 兼 論説委員

梅谷佳明：日本財団災害復興支援センター 熊本本部 センター長

### 地震発生後の「連携」と熊本の動き

**梅谷** 日本財団災害復興支援センター熊本本部を2016年4月26日に立ち上げ、あっという間に1年。阪神・淡路、中越、東日本大震災、熊本と大きな地震が続きましたが、これまでの教訓が活かされた点もあります。例えば全国災害支援ボランティアネットワーク(JVOAD)、NPO熊本、青年会議所の方々により、NPO、ボランティア団体のネットワーク「火の国会議」ができました。キーワードとしては「連携」。行政だけでも、またNPO、ボランティア団体だけでも限界があります。一方今後の復旧・復興の形づくりがどこまでできたかが気になります。例えば新潟であれば中越防災安全推進機構が設立され、「中越型」とでも言うべき形ができました。災害の多い日本で、熊本の教訓がどこまで活かせるのか。そのあたりを考えていきたいと思います。

**小多** 今回は県外からいろんなノウハウを持った人が来てくれて、過去の震災の経験が活かされました。一方でご指摘のように、熊本県民自身がこの1年経った状況をどう認識して、どう踏み出すか、関わっていくか、もしかしたら動きが鈍い、形が見えていない面があると思います。火の国会議においても、いまだに主体は県外の団体です。外部のサポートに頼り過ぎずに、どうすれば現場の力を掘り起こせるか。

**稲垣** 我々の時でも、官民連携が取れ始めたのが震災から1年半後。がっちり組めるのが2年後。あまり焦る必要はないでしょう。最近、官民連携、中間支援といった形ばかりを気にするジレンマがあります。そうではなく、苦労していく中で見えて来るもの、必要性から出て来る官民連携がいいと考えます。また外部からプロのような経験を持った人々が来ると、「ノウハウ」そのものを見てしまう。しかし外から人が入ることによる変化・気づきが大変。阪神、中越はそれが大きかった気がします。むしろ混沌とした中から生まれて来る面白さに光を当てていきたい。こんなに全国から熊本に人が集まることはないわけですから。

**梅谷** 地元の自立が一番ではないでしょうか。型にはまった支援ではなく、地元の方が作り上げていくものを見守っていきたい。お手伝いするべきところはしていくということで、支援を続けたい。

### ボランティアの本質と期待される役割

**梅谷** ボランティアが全国から集まる中で、そのコーディネートはどうだったでしょう。水害における泥かきの場合には危険が少ないのですが、地震による家の全壊、大規模半壊の中でのがれき撤去は怪我の恐れがあります。ボランティアセンターの立ち上げは早かったのですが、地震災害を考えると作業の振り分け等が課題かと思いました。

**稲垣** 阪神・淡路以来9年ぐらい地震災害はなかったので、ボランティアセンターと言えば水害型、マンパワー型のボランティア運営が一般的ですね。

**梅谷** 日本財団には災害現場のプロがいて個別に対応しています。地震、水害、津波、いろいろな災害がある中で、対応できるノウハウがある人が力を発揮できる仕組みづくりが必要です。

**稲垣** いろんな分野のプロが来てくれるのはいいこと。しかし多くの場合、「がれき」「避難所の衛生面」「仮設のコミュニティ」といった個別の対応になってしまう。ボランティアとは被災者の精神面をポジティブに変えてくれる存在、というのがおそらく本質。一方でプロの経験とかノウハウがあると「この怪我にどう絆創膏を貼るか？」という技術的な話になりがちで、もしかしたら本質を忘れてる可能性もあります。

**小多** 熊本では2012年の豪雨もあり、あの時はボランティアの若い人たちが浸水家屋からの土砂のかき出し等、水害対応で活躍しました。今回のような行政の見通せる範囲を超えている大災害では、初期の段階でプロの技を持った方にご協力いただき、全国からの幅広い支援を想定し、行政とも信頼関係を結んでスムーズに支援を推進する仕組みがあってもいいのではないのでしょうか。

### 日常からのコミュニティづくりと災害

**小多** 復興からその先の地域づくりまで視野に入っているかどうか。背景にある高齢化、人材の減少、そこにいろんな人がどうやって関わるか。それをどう具体化していくかに注目したい。

①日本財団 梅谷 ②熊本日日新聞社 小多  
③中越防災安全推進機構 稲垣



**稲垣** 熊本では地域おこし協力隊とか、震災前から定住している人たちが動いています。何かあってからではなく、災害発生前からいて、外部との接点にもなる。新しい時代の流れを感じます。

**小多** 一方で、益城町のような地方都市型の課題というか、緊急時、災害直後は行政主導でいいとしても、その後の復興が住民主体で動くのはハードルが高いようです。

**稲垣** 地方都市の場合、住民はサラリーマンが多く、インフラが整ってしまえばどうしてもそれで終わり。高齢者の一人暮らしや、母子家庭など、地方都市の顕在化した課題をどう考えるか、その視点がすごく大事です。車中泊に見られるように、いざという時にコミュニティに入っていけない人がいるのが顕在化しました。元々コミュニティに溶け込んでいないと、避難生活でも居場所がなくなってしまいます。

**梅谷** 私は熊本市の西区の出身ですが、子どものころは町内のことがすべて分かるような感じでした。今回の震災の対応でも、顔が見えていることは重要な要素であり、キーワードにもなりました。

**小多** 災害というのは住宅に被害が及んだかどうかで支援の仕組みが決まります。しかし困難は建物の問題に留まりません。元々個別の背景があって、住宅の問題としてまとめきれない。一人ひとりの個別の問題に目を向けてサポートしていく仕組みが必要です。車中泊にしても好きでやっているのではなく、避難所に入っていけない事情があります。復興する際の社会の仕組み、地域の仕組み、ハードありきではなく、ソフトにもっと意識を向けるべきです。社会的弱者は、必ずしも声高に助けを求めないですから。

**稲垣** 地面が揺れると社会も揺れます。そこからこぼれ落ちる人も出ます。助ける人、助けられる人、それが入れ替わる場合もあります。いままで世の中とつながりのなかった人が、地震によっていろんな人とつながって、自分たちの居場所ややりがいを作っていく。いろいろなことがダイナミックに動いていく。そこをサポートしていく仕組みが大事ですね。

### 地域の動きと外からの支援、それぞれの役割のこれから

**梅谷** 熊本本部で最初、女性のネットワーク会議など地震をきっかけに新しいものを作っていくとする動きがありました。

**稲垣** その小さな灯火を大事に育てていくのも、外の人たちの役割ではないでしょうか。消えないように手を差し伸べる、薪をくべてあげるような。

**小多** 自分たちの活動の意義・意味に対する共感が広がらず、限界を感じたり、徒労を感じる場合があります。全国的に活動している団体が関わることによって、自分たちがやろうとしていることが、じつはもう動き出していて、まさにいま顕在化したと気づくのです。これからは震災復興を行う団体というよりも、裾野が広くいろんな方が関わるほうがいいですし、地元もつながりを求めないといけません。

**稲垣** 一直線で上手くいく方法はありません。あくまでみんなで悩み、模索するもの。チャレンジすることが大切。官も民もそれができるかどうかですね。新潟でも、開き直ったところから始まりました。プロセスが大事で、結果は先の話。いろんな模索を続けることが重要です。

**小多** しかしまだ行政主導ですね。あの時いろいろ言い合って、いろいろあったけれど良かったね、という状況にはなっていません。その過程があつての復興ですので、我々地元マスコミもそこに関与していかなければならないと思います。

**梅谷** 被害の大きかったところは自分たちでやらざるを得ず、混沌としたプロセスを踏まざるを得ない状況がありました。我々の仕事はそうしたところに芽を見つけて、サポートしていくこと。これから南海トラフ地震も心配です。模索し続ける気持ちの部分大切に、技術の部分も磨きをかけたいところです。



鼎談の後3人で

**稲垣** プロの技術と心の両面が大切。いまはそれらがダイナミックに進化していると感じています。阪神・淡路の時から経験を重ねてプロ化してきて、東日本大震災の経験から火の国会議のようなことも出てきました。一方で気持ちが置き去りの面もあるのかもしれませんが。集まっているプロの被りや漏れがないようにする機能はあるのですが、そこでの課題を政策に反映する仕組みはまだないのが現状です。

**小多** プロの経験値も高まっていて、発災後の役割も大きかった。それを行政の側もしっかりと認識してこれからの動きに組み込んでいけるかどうか。

**稲垣** 震災があつて立ち上がった組織と、元々あつた組織では全然違います。元々の組織は、復興の中で元々のミッションにどうしても戻ってしまいます。それとNPO組織と地域づくりの組織にまだ距離があると感じます。中間支援組織は行政とつなげる、企業とつなげるニーズを満たす支援を行い、それはそれで大事ですが、地域がどう変わるかという視点はじつはあまりありません。行政は県や地域をどうすべきかは普段から考えています。ですから民間にも、これからの社会がどうあるべきかという視点が大事になってきます。

**小多** 地元と外部が連携・補完しあうためには、それぞれが主体性を持って考える必要があります。国や自治体に寄りかかったような姿勢ではなく、地域の人たちが積極的に地域に関われる環境を作りたいし、意識を持ちたいと思います。

**稲垣** 我々の10年目の検証でも、深くまちづくりに参加した人の復興「感」が高い。行政がなんとかしてくれないかなと思っている地域の復興感はずいぶん低いのです。現象・結果は同じなのに、現状を見る目が変わる。いままでは過疎だからしょうがない、あきらめていたものが、コミットすることによって同じ風景が全然違って見えるのです。

**小多** 熊本は、地域の魅力に自分たちが寄りかかって、あまり知恵を出してこなかったところがあるかもしれません。一歩踏み出さないといけない状況で、今回の地震がそのきっかけになればいいと思います。

日本財団 平成28年熊本地震 2016年度収支一覧 (単位:円) ※2017年3月31日時点

	(1)自主財源	(2)一般寄付金	(3)事業指定寄付金	(4)夢の貯金箱
収入	6,788,611,097	257,040,313	260,492,734	144,273,943
支出	6,788,611,097	234,180,022	15,338,778	137,177,943
残高	0	22,860,291	245,153,956	7,096,000

\* (1) 自主財源は、ポートレースの売上の一部である交付金のうち、2014年度より積み立てている「災害復興支援特別基金」から拠出しています。  
 \* (2) 一般寄付金は、日本財団が熊本地震が発生した直後から募金を開始した「災害復興支援特別基金(平成28年熊本地震支援)」に寄せられた寄付金292,004,241円のうち、事業指定寄付34,963,928円を除いた全額から拠出しています。  
 \* (4) 夢の貯金箱は、日本財団が運営する「社会のために何かをしたい」という皆さんの想いや意欲をカタチにする寄付のしくみで、そこに寄せられた寄付金から拠出しています。

(1)自主財源 および (2)一般寄付金、(4)夢の貯金箱への寄付金により実施する事業

▼収入

(1)自主財源	6,788,611,097
(2)一般寄付金「災害復興支援特別基金(平成28年熊本地震支援)」	257,040,313
(4)夢の貯金箱	144,273,943

▼支出

事業分野	事業名	助成先	金額	
緊急支援	避難所への屋内設置型ラップ式トイレの設置	(特)災害医療ACT研究所	137,300,000	(1)自主財源
	医療的ケアが必要な子どもへの在宅支援	熊本小児在宅ケア・人工呼吸療法研究会	31,360,000	(1)自主財源
	障害者等の生活ニーズに関する緊急調査と情報提供	(特)日本相談支援専門員協会	35,126,620	(1)自主財源
	手話通訳者等専門家の配置と派遣	(一財)全日本ろうあ連盟	6,900,000	(1)自主財源
	在宅避難者を中心とした災害弱者支援	(特)み・らいず	18,650,000	(1)自主財源
	熊本市災害ボランティアセンター設置運営	(福)熊本市社会福祉協議会	9,990,000	(1)自主財源
	西原村災害ボランティアセンター設置運営	(福)西原村社会福祉協議会	8,360,000	(1)自主財源
	南阿蘇村災害ボランティアセンター設置運営	(福)南阿蘇村社会福祉協議会	9,960,000	(1)自主財源
	ボランティアセンターの立上げ、運営支援	(特)静岡県ボランティア協会	4,700,000	(1)自主財源
	臨時災害放送局による被災者への情報提供	益城災害FMボランティア連絡会	7,160,000	(1)自主財源
	車中泊者への支援	(一社)危機管理教育研究所	18,000,000	(1)自主財源
	高齢者に対するリハビリテーションプログラムの提供	熊本県復興リハビリテーションセンター	13,500,000	(1)自主財源
	避難所および在宅避難者の状況調査および避難所運営支援	日本財団(自主事業)	51,147,943	(4)夢の貯金箱
	NPO・ボランティア派遣	NPO・ボランティア活動支援	318団体、347事業	234,180,022
熊本地震に係る大学生ボランティア派遣事業		(一財)日本財団学生ボランティアセンター	12,826,000	(1)自主財源
遺族・親族に対する弔慰金		日本財団(自主事業)	19,700,000	(1)自主財源
弔慰金・見舞金の支給	住宅損壊見舞金	日本財団(自主事業)	4,730,800,000	(1)自主財源
	住宅・事業再建資金への融資制度(わかまち基金)	熊本県	500,000,000	(1)自主財源
住宅・事業再建資金への融資制度(わかまち基金)	熊本県住宅再建支援(第1期)	(一財)熊本県建築住宅センター	488,000,000	(1)自主財源
	熊本県事業再建支援(第1期)	熊本県	500,000,000	(1)自主財源
	大分県住宅再建支援(第1期)	(一財)大分県建築住宅センター	50,000,000	(1)自主財源
	大分県事業再建支援(第1期)	大分県中小企業復興支援協議会	300,000,000	(1)自主財源
社会福祉施設等への支援	小規模多機能ホーム「大きなかぶ」の修繕	(福)敬愛会	4,890,000	(1)自主財源
	障害者支援施設「第二明星学園」の仮設住居の建築	(福)御陽会	30,000,000	(1)自主財源
	保育所「聖母幼愛園」仮設園舎の建築	(福)聖マリア会	30,000,000	(1)自主財源
	特別養護老人ホーム「照古苑」の修繕	(福)白日会	30,000,000	(1)自主財源
	障害者就労センター「ウィルアークス」および障害者支援施設「阿蘇くんの里」の機器整備	(福)やまなみ会	11,160,000	(1)自主財源
	障害者支援施設「つくしの里」の修繕	(福)清和会	2,640,000	(1)自主財源
	ケアハウス「偕老苑」の修繕	(福)権現福祉会	28,830,000	(1)自主財源
	熊本県青年会館の修繕	(一財)熊本県青年会館	28,960,000	(1)自主財源
	通所多機能型事業所「第二城南学園」の修繕および機器整備	(福)慶信会	27,230,000	(1)自主財源
	軽費老人ホーム「暁荘」の修繕	(福)白川園	9,120,000	(1)自主財源
	障害者地域活動支援センター「アンパ」の増築	(福)三気の会	25,360,000	(1)自主財源
	デイサービスセンター「いつものところ」の改造	(福)はるかぜ会	26,360,000	(1)自主財源
	軽費老人ホーム「すずらん苑」の修繕	(福)天龍会	30,000,000	(1)自主財源
	小規模住居型児童養育事業所「宮津ファミリーホーム」の復旧	宮津ファミリーホーム	2,110,000	(1)自主財源
	海洋センターの復旧修繕	(公財)ブルーシー・アンド・グリーンランド財団	19,900,000	(1)自主財源
	小中学生向けのイベントの実施	フェリーを用いた海洋体験事業の実施	(公財)九州運輸振興センター	66,818,477
帆船を用いた海洋体験事業の実施		(一社)グローバル人材育成推進機構	12,900,000	(1)自主財源
コミュニティ形成支援	熊本地震「コミュニティ復興」支援事業	日本財団(自主事業)	3,600,000	(4)夢の貯金箱
(1)自主財源	計	6,788,611,097		
(2)一般寄付金「災害復興支援特別基金(平成28年熊本地震支援)」	計	234,180,022		
(4)夢の貯金箱	計	137,177,943		

▼残高

(1)自主財源	0
(2)一般寄付金「災害復興支援特別基金(平成28年熊本地震支援)」	22,860,291
(4)夢の貯金箱	7,096,000

(3)事業指定寄付金により実施する事業

▼収入

基金名	金額
キリン絆プロジェクト 熊本地震復興応援基金	225,528,806

▼支出

事業名	支援先	金額
被災地における子ども向けイベントに関わる支援	熊本フェリー株式会社 (一社)グローバル人材育成推進機構 新日本海サービス株式会社	669,218
『世界文化遺産』を目指す阿蘇エリア草原再生プロジェクト	(公財)阿蘇グリーンストック	4,500,000
なでしこジャパン熊本地震震災復興マッチにおける被災地の子ども達への支援事業	(一社)熊本県サッカー協会	0
地域支え合いセンターと連携したコミュニティづくり支援プロジェクト	くまもと災害ボランティア団体ネットワーク(KVOAD)	0
事業管理費	日本財団(自主事業)	169,560
計		5,338,778

▼残高

220,190,028
-------------

▼収入

寄付者	金額
フィリップ モリス ジャパン合同会社	30,000,000

▼支出

事業名	支援先	金額
熊本地震被災地における中高生キャリア支援プロジェクト	(認特)カタリバ	10,000,000
計		10,000,000

▼残高

20,000,000
------------

▼収入

寄付者	金額
ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会	4,963,928

▼支出

事業名	支援先	金額
仮設住宅団地での新しいコミュニティの助け合い醸成による子育て支援	(特)子育て応援おきな木	0
大規模仮設団地でのコミュニティ形成支援	(特)益城だいきプロジェクト・きまに	0
離散して避難生活を送る地域住民の情報共有支援と交流支援	南阿蘇復興支援センター	0
熊本城旧城下町「新町古町地区」のまちなみ保存支援	くまもと新町古町復興プロジェクト	0
住民による主体的な復興まちづくりプランの策定と提案支援	東無田復興委員会	0
「神楽の里」の地域文化を尊重した復興ビジョンの策定	神楽の里をもりあげ隊	0
計		0

▼残高

4,963,928
-----------

※1: 2016年度に10,696,000円で支援を決定していますが、2016年度内の支出額は3,600,000円  
 ※2: 2016年度に2,000,000円で支援を決定していますが、2016年度内の支出額は0円  
 ※3: 2017年度に10,000,000円で支援を決定しているため、2016年度内の支出額は0円  
 ※4: 2016年度に30,000,000円で支援を決定していますが、2016年度内の支出額は10,000,000円  
 ※5: 2017年度に4,963,928円で支援を決定しているため、2016年度内の支出額は0円

団体数:318 事業数:347 支援総額 ¥316,610,022 (2017年3月31日時点)

日本財団が地震直後から「熊本地震ボランティア活動資金」として募金を開始した「災害復興支援特別基金(平成28年熊本地震支援)」と「夢の貯金箱」に寄せられた寄付金により支援しています。

災害復興支援特別基金(平成28年熊本地震支援) ¥234,180,022  
夢の貯金箱 ¥82,430,000

● 災害復興支援特別基金(寄付金) ★ 夢の貯金箱

No.	団体種別	団体名	団体所在地	支援金額	寄付金の種類
1	(一財)	バリアバリュー財団	大阪府	1,000,000	●
2	(一社)	日本女子力推進事業団	東京都	1,000,000	●
3	(特)	大分県防災活動支援センター	大分県	1,000,000	●
4	(特)	田舎のヒロインズ	熊本県	350,000	●
5		DRT所沢	埼玉県	1,000,000	●
6	(特)	九州バイオマスフォーラム	熊本県	1,000,000	●
7		ハウス・パブリッシング 福祉デザイン研究所	奈良県	1,000,000	●
8	(特)	CONCENT	大阪府	1,000,000	●
9		RAC救援隊支援ネット	東京都	890,000	●
10	(特)	宮崎文化本舗	宮崎県	990,000	●
11	(特)	親子ネットワークがじゅまるの家	鹿児島県	880,000	●
12	(特)	ここほっと	鹿児島県	1,000,000	●
13		ユーアイアソシエーション	兵庫県	1,000,000	●
14	(特)	鍼灸地域支援ネット	滋賀県	1,000,000	●
15	(特)	東海福祉移動研究協議会	愛知県	1,000,000	●
16	(特)	くまもと障がい者就労支援ネットワーク	熊本県	1,000,000	●
17	(一社)	フレンドくらぶ	宮城県	1,000,000	●
18	(一財)	学びやの里	熊本県	1,110,000	●
19		センドラブクマモト 一般社団法人 さくら福祉会	熊本県	1,000,000	●
20		日本精神衛生学会こころの相談緊急電話	東京都	1,000,000	●
21	(一社)	熊野レストレーション	三重県	1,000,000	●
22	(特)	一滴の会	宮崎県	700,000	●
23	(特)	フォルダ	岩手県	1,000,000	●
24	(認特)	まち・コミュニケーション	兵庫県	1,000,000	●
25		西原つなごう会	熊本県	1,000,000	●
26	(一社)	日本ボーイスカウト熊本県連盟	熊本県	1,000,000	●
27		NPO災害ボランティア 愛・知・人	愛知県	1,000,000	●
28		国際サイエントロジーボランティア	東京都	1,000,000	●
29	(特)	となりのかいご	神奈川県	1,000,000	●
30		2016年熊本地震シングルマザー就労支援プロジェクト	熊本県	1,000,000	●
31		北陸学院大学 よりそいの花プロジェクト	石川県	940,000	●
32	(一社)	志誠会 マチと医科学研究所	熊本県	1,000,000	●
33	(認特)	みんなの夢の音楽隊	埼玉県	1,000,000	●
34	(特)	ボランティア仲間九州ラーメン党	熊本県	960,000	●
35	(特)	Natural Resource Damage Assessment of Asia	東京都	1,000,000	●
36	(特)	遠野まごころネット	岩手県	1,000,000	●
37	(一社)	REVIVEJAPAN	山梨県	1,000,000	●
38	(特)	遠野まごころネット	岩手県	1,000,000	●
39	(特)	フードバンクかごしま	鹿児島県	1,000,000	●
40		福井県災害ボランティア支援センター「チームふくい」	福井県	1,000,000	●
41	(特)	KAプロジェクト	熊本県	1,000,000	●
42	(特)	ふくい災害ボランティアネット	福井県	1,000,000	●
43	(福)	はる	佐賀県	1,000,000	●
44	(福)	石巻祥心会	宮城県	1,000,000	●
45	(特)	Vネット	岐阜県	1,000,000	●
46	(特)	凸凹ライフデザイン	熊本県	970,000	●
47	(特)	福岡城南防犯協会	福岡県	1,000,000	●

No.	団体種別	団体名	団体所在地	支援金額	寄付金の種類
48	(特)	五ヶ瀬自然学校	宮崎県	1,000,000	●
49	(特)	ワンファミリー仙台	宮城県	1,000,000	●
50		川崎医療福祉大学	岡山県	1,000,000	●
51	(福)	鳥取こども学園	鳥取県	1,000,000	●
52	(一社)	パーソナルサポートセンター	宮城県	1,000,000	●
53	(特)	アレルギーを考える母の会	神奈川県	1,000,000	●
54	(特)	みずのとらベル隊	熊本県	1,000,000	●
55	(特)	PEACE OF MIND LIFE SUPPORT 神奈川	神奈川県	1,000,000	●
56		日本福祉大学災害ボランティアセンター	愛知県	1,000,000	●
57		災害鍼灸マッサージプロジェクト	東京都	650,000	●
58		SVTS「風組」	新潟県	1,000,000	●
59		コミサポひろしま	広島県	1,000,000	●
60	(特)	とちぎボランティアネットワーク	栃木県	1,460,000	●
61		縁の下のもぐら	兵庫県	1,000,000	●
62	(公社)	日本鍼灸師会	東京都	1,000,000	●
63	(特)	エコワールドきりしま	宮崎県	1,000,000	●
64		まいづる鍋炊出し隊	鹿児島県	1,000,000	●
65	(特)	ライフケアサポート協会	福岡県	1,000,000	●
66	(認特)	キャンパー	埼玉県	1,000,000	●
67		NGO日本警察消防スポーツ連盟	神奈川県	450,000	●
68	(特)	小さな一歩	東京都	850,000	●
69		向山校区まちづくり委員会	熊本県	1,000,000	●
70		熊本大学日本史研究室資料保全継承会議	熊本県	1,000,000	●
71		兵庫県移送サービスネットワーク	兵庫県	1,000,000	●
72	(一社)	夢ネットはちどり	熊本県	980,000	●
73		熊本県赤十字防災ボランティアリーダー会	熊本県	100,000	●
74	(福)	明日へ向かって	福岡県	480,000	●
75	(特)	災害看護支援機構	兵庫県	1,000,000	●
76	(特)	遠野山・里・暮らしネットワーク	岩手県	500,000	●
77		砥用ライオンズクラブ	熊本県	1,000,000	●
78	(一社)	防災機器検査協会	東京都	1,000,000	●
79	(特)	チーム絆	東京都	800,000	●
80	(特)	凸凹ライフデザイン	熊本県	1,000,000	●
81	(特)	フォトサルベージの輪	千葉県	400,000	●
82		氷川町総合型地域スポーツクラブ	熊本県	1,000,000	●
83	(一社)	MMIX Lab	宮城県	1,000,000	●
84	(一社)	東の食の会	東京都	990,000	●
85		ヒューマンシールド神戸	長野県	1,000,000	●
86		まちづくりNPOげんき宮城研究所	宮城県	1,000,000	●
87		県南地区商工会青年部連絡協議会	熊本県	900,000	●
88		SAVE IWATE しずおか	静岡県	1,000,000	●
89		東海大学熊本キャンパス復興支援チーム Vukki	熊本県	360,000	●
90	(特)	でかけ隊	兵庫県	1,000,000	●
91	(一社)	危機管理教育研究所	東京都	1,000,000	●
92		清水災害ボランティアネットワーク	静岡県	1,000,000	●
93		くまもとFTC	熊本県	1,000,000	●
94	(特)	日本リザルツ	東京都	990,000	●
95	(福)	ながよ光彩会	長崎県	1,000,000	●
96		ソーシャルコネクト	東京都	590,000	●
97		関西STS連絡会	大阪府	1,000,000	●
98	(特)	School Green Japan	愛媛県	1,000,000	●
99	(一社)	情報センターFais	福島県	1,000,000	●
100		NPO法人MAKE THE HEAVEN め組JAPAN	兵庫県	1,000,000	●
101	(福)	むそう	愛知県	1,000,000	●
102	(特)	ふわり	愛知県	1,000,000	●
103		ママそら☆くまもと	熊本県	670,000	●
104		高齢者の筋力トレーニング研究会	熊本県	970,000	●
105		災害支援ネットワークNPOかけはし	岡山県	1,000,000	●
106		ツナガリアートプロジェクト	熊本県	450,000	●
107	(一社)	まちづくり益城	熊本県	1,000,000	●

No.	団体種別	団体名	団体所在地	支援金額	寄付金の種類
108		児童家庭支援センター「和(やわらぎ)」	大分県	1,000,000	●
109	(特)	五島あすなろ会	長崎県	1,000,000	●
110		風組関東	東京都	1,000,000	●
111		気仙沼ゲストハウス架け橋	宮城県	890,000	●
112		震災がつなぐ全国ネットワーク	愛知県	1,000,000	●
113	(特)	コミュニティサポートスクエア	岐阜県	400,000	●
114	(公財)	熊本市美術文化振興財団	熊本県	1,000,000	●
115		光の輪友の会	埼玉県	1,000,000	●
116	(公社)	中越防災安全推進機構	新潟県	1,000,000	●
117		くまもと友救の会	熊本県	1,000,000	●
118		熊本地震被災者支援チーム	熊本県	1,000,000	●
119	(特)	NPOホットライン信州	長野県	1,000,000	●
120		Architect craftsman team Japan	埼玉県	990,000	●
121	(医社)	オレンジ オレンジホームケアクリニック	福井県	1,000,000	●
122		風組関東	東京都	1,000,000	●
123	(一社)	ATHLETE SAVE JAPAN	東京都	1,000,000	●
124		災害支援チーム零	宮城県	1,000,000	●
125	(特)	震災リゲイン	東京都	950,000	●
126	(一社)	SINKa	福岡県	280,000	●
127	(公社)	みらいサポート石巻	宮城県	1,000,000	●
128		高千穂郷ガイドハウス	宮崎県	640,000	●
129		チームビバリー	熊本県	1,000,000	●
130		妊娠・出産・子育て情報ネットワーク うみ・つき	熊本県	700,000	●
131	(特)	全国コミュニティライフサポートセンター	宮城県	990,000	●
132		プロボノ 大和園	埼玉県	1,000,000	●
133	(一社)	災害復興支援協議会ダッシュ隊大阪	大阪府	1,000,000	●
134	(特)	全国地域生活支援ネットワーク	新潟県	1,000,000	●
135		J.I.S(石巻環境ネット住環境支援チーム)	愛知県	1,000,000	●
136	(特)	ボランティアインフォ	宮城県	990,000	●
137	(特)	ひびきの郷	熊本県	0	●
138	(特)	えん	熊本県	1,000,000	●
139		ARTISAN CLUB	熊本県	340,000	●
140	(公社)	全日本鍼灸マッサージ師会	東京都	1,000,000	●
141		ボランティア団体ASAGIRI	熊本県	250,000	●
142		lbasho事業熊本本部すずのわ	熊本県	500,000	●
143		学生団体 つながり大作戦	三重県	280,000	●
144	(特)	凸凹ライフデザイン	熊本県	870,000	●
145		東日本大震災HS神戸サポートチーム	埼玉県	1,000,000	●
146	(特)	抱樸	福岡県	980,000	●
147		椿ヶ丘復興支援ハウス	福岡県	1,000,000	●
148		レスキューアシスト	熊本県	1,000,000	●
149	(特)	くまもとスローワーク・スクール	熊本県	950,000	●
150	(特)	遠野まごころネット	岩手県	1,000,000	●
151		熊本地震・共同支援ネットワーク	熊本県	1,000,000	●
152		グリーンコープ生活協同組合くまもと	熊本県	1,000,000	●
153	(一財)	熊本市国際交流振興事業団	熊本県	970,000	●
154		火の国未来づくりネットワーク上益城	熊本県	570,000	●
155	(特)	アトピッ子地球の子ネットワーク	東京都	1,000,000	●
156	(公社)	埼玉県鍼灸マッサージ師会	埼玉県	1,000,000	●
157	(福)	北九州市手をつなぐ育成会	福岡県	1,000,000	●
158		神奈川災ボラ熊本地震支援実行委員会	神奈川県	1,000,000	●
159		障害学生パートナーシップネットワーク	熊本県	1,000,000	●
160	(特)	ななうらステーション	熊本県	930,000	●
161		kai 工房	山梨県	1,000,000	●
162	(公社)	長寿社会文化協会	東京都	1,000,000	●
163		熊本県保育協議会	熊本県	1,000,000	●
164		こころをつなぐよか隊ネット	熊本県	1,000,000	●
165	(公財)	共生地域創造財団	宮城県	990,000	●
166		ARTS for HOPE	東京都	990,000	●
167	(一社)	生活再生 ワーカーズともに	福岡県	990,000	●

No.	団体種別	団体名	団体所在地	支援金額	寄付金の種類
168	(福)	笠岡市社会福祉協議会	岡山県	400,000	●
169		NGO Cuddie	長野県	800,000	●
170		よりどころ	熊本県	1,000,000	●
171	(一社)	日本遠隔カウンセリング協会(福岡支部)	福岡県	990,000	●
172	(一社)	日本リハビリテーション工学協会	神奈川県	1,000,000	●
173	(特)	チャイルドケアサポートみるく	熊本県	960,000	●
174	(特)	人材育成支援センター	熊本県	1,000,000	●
175		秘密基地キャラバン隊	島根県	1,000,000	●
176		NGOマザー & アースくまもと	熊本県	1,000,000	●
177		熊本県高齢者障害者福祉生活協同組合	熊本県	1,000,000	●
178	(特)	子育てネットワークわ・わ・わ(話・和・輪)	熊本県	1,000,000	●
179	(一社)	やまと災害ボランティアネットワーク	神奈川県	1,000,000	●
180	(特)	コレクティブ	熊本県	1,000,000	●
181	(公財)	社会福祉笑顔ふれあい財団	福岡県	670,000	●
182	(特)	防災・災害ボランティアかわせみ	東京都	480,000	●
183		崇城大学ボランティアビレッジ	熊本県	1,000,000	●
184		舞鶴災害ボランティアセンター	京都府	830,000	●
185		南阿蘇ふるさと復興ネットワーク	熊本県	1,000,000	●
186		熊本大学大学院生命科学部看護学講座小児看護学研究室	熊本県	980,000	●
187	(特)	人材育成支援センター	熊本県	1,000,000	●
188	(一社)	JDSO災害支援ネットワーク	長野県	1,000,000	●
189	(特)	小町ウイング	熊本県	1,000,000	●
190	(一社)	まちづくり益城	熊本県	1,000,000	●
191	(特)	ユナイテッド・アース	兵庫県	1,000,000	●
192		支援チーム筑後	福岡県	1,000,000	●
193	(特)	キャンナス	神奈川県	1,000,000	●
194	(公社)	チャンス・フォー・チルドレン	兵庫県	1,000,000	●
195	(一社)	RQ災害教育センター	東京都	990,000	●
196		阪神・淡路まちづくり支援機構	兵庫県	830,000	●
197		Go for it	熊本県	1,000,000	●
198		山元町おてら災害ボランティアセンター	宮城県	1,000,000	●
199	(特)	SKウェルネス	熊本県	1,000,000	●
200		国際災害支援機構	京都府	880,000	●
201		Kumamoto Art Organization	熊本県	930,000	●
202		Project架け橋	福岡県	620,000	●
203		兵庫県介護支援専門員協会明石支部	兵庫県	1,000,000	●
204		Noroshi西原	熊本県	1,000,000	●
205		みえ災害ボランティア支援センター	三重県	920,022	●
206	(特)	生活と教育	熊本県	900,000	●
207		K-family	鹿児島県	1,000,000	●
208	(特)	It's Not Just Mud	宮城県	880,000	●
209	(認特)	チャイルドライン「もしもしキモチ」	福岡県	1,000,000	●
210	(公社)	くまもと被害者支援センター	熊本県	1,000,000	●
211		ガテンくりりん	熊本県	1,000,000	●
212	(特)	さくらネット	兵庫県	1,000,000	●
213		災害支援 one love 工房	和歌山県	1,000,000	●
214	(特)	日本ホスピス・在宅ケア研究会	兵庫県	1,000,000	●
215	(公財)	佐賀未来創造基金	佐賀県	1,000,000	●
216		きくちのもの	熊本県	1,000,000	●
217	(特)	子育て応援おおきな木	熊本県	690,000	●
218	(特)	M. O. S. C. O.	群馬県	950,000	●
219		キクチノ和	熊本県	1,000,000	●
220		熊本心理リハビリテーション研究会	熊本県	1,000,000	●
221	(一社)	パーソナルサポートセンター	宮城県	1,000,000	●
222	(特)	絆	熊本県	1,000,000	●
223	(特)	九州バイオマスフォーラム	熊本県	1,000,000	●
224	(特)	チャルカ・ジャパン	福岡県	320,000	●
225	(特)	アスペ・エルデの会	愛知県	1,000,000	●
226	(一社)	コミュニティシンクタンク北九州	福岡県	1,000,000	●
227	(福)	ゆうかり	鹿児島県	1,000,000	●



No.	団体種別	団体名	団体所在地	支援金額	寄付金の種類
228	(一社)	フミダス	熊本県	1,000,000	●
229		震災がつなぐ全国ネットワーク	愛知県	1,000,000	●
230		国境なき奉仕団チーム風	栃木県	1,000,000	●
231	(特)	障がい者支援の会すまいる	熊本県	1,000,000	★
232		アカデミー総合支援ボランティアチーム	熊本県	270,000	★
233	(特)	こそだてサポーターあばり	熊本県	600,000	★
234		Angel's smile for Nishihara by Mama Angel's	熊本県	610,000	★
235	(一社)	ACTくまもと	熊本県	1,000,000	★
236		阿蘇災害ボランティアベースZEN	熊本県	1,000,000	★
237	(一社)	OPEN JAPAN	宮城県	1,000,000	★
238		災害NGO結	沖縄県	1,000,000	★
239	(認特)	NEXTEP	熊本県	300,000	★
240	(特)	さくらネット	兵庫県	990,000	★
241		氷川町総合型地域スポーツクラブ	熊本県	1,000,000	★
242		熊本地震被災地支援チームM.H.O	熊本県	1,000,000	★
243	(特)	地球の楽好	宮城県	1,000,000	★
244	(一社)	ZENKON-nex	香川県	0	★
245	(一社)	ZENKON-nex	香川県	0	★
246	(一社)	子供教育創造機構	東京都	1,000,000	★
247	(一社)	子供教育創造機構	東京都	1,000,000	★
248	(一社)	子供教育創造機構	東京都	1,000,000	★
249	(特)	くまっこステーション	熊本県	1,000,000	★
250	(特)	WE	熊本県	800,000	★
251	(特)	環境ネットワークくまもと	熊本県	990,000	★
252	(特)	さくらネット	兵庫県	1,000,000	★
253		おたがいさま食堂くまもと	熊本県	950,000	★
254		みらいhappy	熊本県	1,000,000	★
255	(特)	阿蘇エコファーマーズセンター	熊本県	1,000,000	★
256	(公財)	熊本県立劇場	熊本県	1,000,000	★
257		にしはらにじいろプロジェクト	熊本県	980,000	★
258		鹿屋有志災害支援「かのや助け愛隊」	鹿児島県	600,000	★
259	(福)	熊本いのちの電話	熊本県	1,000,000	★
260		ママの為に青空保育	熊本県	1,000,000	★
261	(一社)	日本カーシェアリング協会	宮城県	950,000	★
262		市民団体「チーム小林47」	宮崎県	1,000,000	★
263		南阿蘇復興支援センター	熊本県	1,000,000	★
264		「ロアッソ熊本をJ1へ」県民運動推進本部	熊本県	700,000	★
265	(特)	OneField	熊本県	1,000,000	★
266		はり灸レンジャー	岐阜県	1,000,000	★
267	(一社)	スポーツクラブマネージメント熊本	熊本県	780,000	★
268	(特)	熊本にプロバスケットボールチームをみんなで創ろう会	熊本県	1,000,000	★
269	(特)	遠野まごころネット	岩手県	1,000,000	★
270		災害支援信濃町連絡会	長野県	1,000,000	★
271	(特)	夢工人	熊本県	350,000	★
272	(特)	はっぴいの園	熊本県	1,000,000	★
273		Kumarism	熊本県	980,000	★
274	(特)	NPO天草シーフォート	熊本県	910,000	★
275		災害NGO結	沖縄県	1,000,000	★
276	(一社)	日本中医学会	東京都	1,000,000	★
277	(福)	AJU自立の家	愛知県	1,000,000	★
278		災害時救援ボランティアコーディネーターみやざき	宮崎県	1,000,000	★
279		熊本地震被災地障がい者とつなぐプロジェクトおおむた実行委員会	福岡県	1,000,000	★
280		東北大学 スクラム	宮城県	1,000,000	★
281	(特)	スペシャルオリンピックス日本・熊本	熊本県	780,000	★
282		風組関東	東京都	1,000,000	★
283		Noroshi西原	熊本県	1,000,000	★
284		神戸大学学生震災救援隊	兵庫県	180,000	★
285	(特)	みるくらぶ	熊本県	1,000,000	★
286	(特)	いわて連携復興センター	岩手県	1,000,000	★
287		Rivusa	千葉県	300,000	★

No.	団体種別	団体名	団体所在地	支援金額	寄付金の種類
288	(特)	熊本県子ども劇場連絡会	熊本県	1,000,000	★
289		NGO災害救援チーム フェニックス救援隊	東京都	1,000,000	★
290		社福学生災害ボランティアグループ	熊本県	480,000	★
291	(一社)	ハートレジリエンス協会	東京都	1,000,000	★
292	(一社)	BIG UP石巻	宮城県	1,000,000	★
293		熊本こども・女性支援ネット	熊本県	1,000,000	★
294	(福)	嘉島町社会福祉協議会	熊本県	1,000,000	★
295	(特)	だれにも音楽祭	熊本県	1,000,000	★
296		チーム熊本『anone』制作委員会	熊本県	1,000,000	★
297		たてもの修復支援ネットワーク	新潟県	980,000	★
298	(特)	あたたかい心	愛知県	1,000,000	★
299	(特)	いじめ対策プロジェクト	鹿児島県	1,000,000	★
300		尚綱短大 九品寺GAMADAS	熊本県	0	★
301		コミサボひろしま	広島県	1,000,000	★
302	(特)	いわてGINGA-NET	岩手県	1,000,000	★
303		にんにこ被災者支援ネットワーク・和歌山	和歌山県	1,000,000	★
304	(公社)	東京社会福祉士会	東京都	700,000	★
305		南浜ひまわりプロジェクト	千葉県	700,000	★
306		阿蘇災害ボランティアベースZEN	熊本県	910,000	★
307		災害NGO ラブ&アース	長野県	1,000,000	★
308	(特)	エヌピーオーくまもと	熊本県	780,000	★
309	(特)	エイブル・アート・ジャパン	東京都	1,000,000	★
310		持続可能な環境共生林業を実現する自伐型林業推進協会	東京都	1,000,000	★
311	(特)	レスキューストックヤード	愛知県	1,000,000	★
312	(公財)	阿蘇火山博物館久木文化財団	熊本県	1,000,000	★
313	(特)	P.U.Sバングラデシュの村を良くする会	兵庫県	500,000	★
314		熊本県難聴者中途失聴者協会	熊本県	360,000	★
315	(特)	チャイルドラインながさき	長崎県	1,000,000	★
316		熊本学園大学ボランティアセンター	熊本県	1,000,000	★
317		九州大学生災害支援プロジェクトお結び	福岡県	980,000	●
318		カフェ型健康サロン・プロジェクト	熊本県	1,000,000	●
319		あすなろ熊本	福岡県	980,000	●
320		NPOささえあうなま	熊本県	1,000,000	●
321		九州建築系大学・仮設住宅環境向上プロジェクト	福岡県	1,000,000	●
322		阿蘇市消防団11分団1部3班	熊本県	1,000,000	●
323		SAKURAKI + people	熊本県	1,000,000	●
324		兼八興業 災害支援ネットワーク	山形県	1,000,000	●
325	(特)	レスキューストックヤード	愛知県	1,000,000	●
326		InformationBEPPU	大分県	1,000,000	●
327	(一社)	パーソナルサポートセンター	宮城県	1,000,000	●
328		立教大学コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト	埼玉県	1,000,000	●
329		大阪市立大学 建築計画研究室	大阪府	790,000	●
330	(認特)	日本若手精神科医の会	東京都	1,000,000	★
331	(一社)	九州福祉会	熊本県	650,000	●
332		兵庫県立大学大学院 DNGL Hyogo Student Association	兵庫県	1,000,000	★
333	(特)	東京いのちのポータルサイト	東京都	1,000,000	●
334	(一社)	OPEN JAPAN	宮城県	1,000,000	●
335	(特)	SEEDS OF HOPE	埼玉県	1,000,000	★
336		子どものあそび研究会	熊本県	1,000,000	●
337		子ども達へ笑顔を!読み聞かせボランティア	熊本県	940,000	●
338		障害学生パートナーシップネットワーク	熊本県	1,000,000	★
339	(一社)	Smart Survival Project	東京都	1,000,000	●
340	(特)	災害看護支援機構	兵庫県	1,000,000	●
341	(一社)	Smart Survival Project	東京都	1,000,000	●
342		ヒューマンシールド神戸	長野県	1,000,000	★
343		南阿蘇よみがえり	熊本県	1,000,000	★
344	(特)	地球緑化の会	熊本県	1,000,000	★
345	(特)	ソナエトコ	熊本県	400,000	●
346		被災建物・史料救援ネット	新潟県	1,000,000	★
347		NPO災害ボランティアなみの	熊本県	600,000	●

甲慰金・見舞金 配付内訳 ※2017年5月7日時点

●甲慰金 221人(直接死49人(※)、関連死167人、二次災害死5人)

※ご遺族がいらっしゃらず、1名が未申請

市町村	直接死	関連死	二次災害死	合計	配付率(%)
熊本市	3	63	2	68	98.6
八代市	1	3		4	100.0
菊池市		3		3	100.0
宇土市		7	2	9	100.0
上天草市			1	1	100.0
宇城市		8		8	100.0
阿蘇市		17		17	100.0
合志市		6		6	100.0
美里町		1		1	100.0
大津町		4		4	100.0
菊陽町		6		6	100.0
高森町		3		3	100.0
西原村	5	3		8	100.0
南阿蘇村	16	11		27	100.0
御船町	1	8		9	100.0
嘉島町	3	2		5	100.0
益城町	20	17		37	100.0
甲佐町		3		3	100.0
山都町		1		1	100.0
氷川町		1		1	100.0

●見舞金 23,818世帯(全壊11,544世帯、大規模半壊12,274世帯)

市町村	全壊	大規模半壊	合計	配付率(%)
熊本県				
熊本市	5,326	8,835	14,161	96.9
八代市	23	43	66	100.0
玉名市	11	12	23	100.0
菊池市	66	66	132	91.7
宇土市	111	166	277	86.6
上天草市	2		2	100.0
宇城市	483	344	827	92.5
阿蘇市	107	90	197	92.5
合志市	43	64	107	73.8
美里町	17	44	61	96.8
玉東町	16	19	35	89.7
和水町		4	4	100.0
大津町	115	233	348	98.9
菊陽町	14	64	78	87.6
南小国町	2	2	4	100.0
産山村	11	11	22	95.7
西原村	490	205	695	97.6
南阿蘇村	594	178	772	89.5
御船町	403	380	783	90.8
嘉島町	269	99	368	92.5
益城町	3,277	1,122	4,399	97.2
甲佐町	103	214	317	94.6
山都町	17	44	61	100.0
氷川町	33	30	63	98.4
計	11,533	12,269	23,802	95.9
大分県				
大分市	1		1	50.0
別府市	7	3	10	90.9
中津市		1	1	100.0
宇佐市	1		1	100.0
由布市	1	1	2	100.0
九重町	1		1	100.0
計	11	5	16	64.0

- 甲慰金:亡くなられた方のご遺族に対する一時金
- 見舞金:生活場所である住宅が全壊または大規模半壊された世帯に対する一時金
- 配付率は熊本県庁、大分県庁および各自治体発表の数字(2017年3月31日時点)の情報を基に算出。

[編集後記]

想定外。震災後、熊本に来てからこの言葉を何回も聞いた。

これまで人々が地震とは無縁だと考えていた地において、また大地震が起こった。それまでの住み良かった町並みが一変した益城町、西原村、南阿蘇村など被害の大きかった市町村に行く度に、日本のどこでも、大災害が起きる可能性があることを痛感した。

私たちの業務は、被災した方々が元の生活を取り戻すためのお手伝いである。今回も、熊本の現地事務所だけでなく、東京ではソーシャルイノベーション推進チーム、海洋チームを中心に財団全体で業務に取り組んだ。本震後1年が経過した現在、熊本市の中心部市街地等、一見すれば地震の傷跡も癒えてきたように見える。しかしながら、応急仮設住宅での孤独死、中山間地域での集団移転、城下町としての町並み保存等、解決しなければならない課題は山積みだと言える。当財団としては継続して復旧・復興のお手伝いをしていきたい。本報告書は、そのような状況の中、改めてこの1年の当財団の活動を振り返るとともに、必ず起こりうる次の大災害に備えるための課題を考える一助になるよう作成したものである。

2017年5月

日本財団災害復興支援センター 熊本本部 センター長 梅谷佳明  
日本財団ソーシャルイノベーション推進チーム 石川紗織 橋本葉一

制作・編集:日本財団

制作協力・デザイン:有限会社 Bit Beans Mizuio Design 株式会社エコトバ  
2017年5月18日

## 「災害復興支援特別基金」への 寄付にご協力ください

災害発生時、被災地にいち早く入り支援活動に従事し、被災地において重要な役割を果たしたのは全国から集まったNPOやボランティアでした。

被災地では様々な課題が次々に生まれ、支援のニーズは複雑かつ多岐にわたり刻々と変化する中で、専門性を持ったNPOやボランティアは大変厳しい状況にも関わらず、民間の立場から被災者に寄り添い、きめ細やかな支援活動に全力を尽くしてきました。

災害発生時に大きな役割を果たすNPOやボランティアの支援活動に欠かせないもの、それは真っ先に動くための「支援金」です。

日本財団では災害発生時に、NPOやボランティアが一刻も早く活動を開始するための支援金として「災害復興支援特別基金」を設置しています。皆様からのご寄付は全額支援活動に活用させていただきます。皆様のご寄付が、災害発生時にいち早く被災地の支援につながり、被災地の力となります。どうかあたたかいご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

### 【銀行振込先】

銀行名:三菱東京UFJ銀行 口座番号:1660782  
支店名:本店 口座名(漢字):公益財団法人 日本財団  
預金種別:普通 口座名(カナ):ザイニッポンザイダン

これまでの実績など、詳細は [災害復興支援特別基金](#)

[検索](#)



For Social Innovation

〒107-8404 東京都港区赤坂1-2-2 TEL:03-6229-5111

E-mail : [cc@ps.nippon-foundation.or.jp](mailto:cc@ps.nippon-foundation.or.jp)

URL : <http://www.nippon-foundation.or.jp>